

平成 25 年度

中英研會報

第 72 号

東京都中学校英語教育研究会

平成 25 年度 ― 行 動 目 標 ―

東京都中学校英語教育研究会は、21 世紀における中学校英語教育のなお一層の充実・発展を目指して活動することにその意義を有するものである。

よって、つぎのような行動目標のもと積極的にその活動を推進する。

1. 組織の充実とその活性化を図る。
 - (1) 都中英研の組織がより強固なものとなるようその充実を図り、改善を行う。
 - (2) 都中英研の各種事業により多くの教員や学校が参画することを通して、その活性化を図る。
 - (3) 都中英研の諸活動が一層活発に進められるよう、各地区の部長、幹事と連携を密にし、組織としての基盤づくりに努める。

2. 人材の発掘とその育成に努める。
 - (1) 有能な人材を発掘し、リーダー層の育成を図るとともに、英語教員全体の資質向上を推進する。
 - (2) 英語教員の資質向上を目指した研修事業を積極的に企画し遂行する。
 - (3) 英語教員の養成と研修の充実を目的に、授業研究を一層活発に推進できるよう支援体制を整備する。

3. 調査・研究の充実を図る。
 - (1) 学習指導要領の趣旨を踏まえ、組織的な調査・研究を推進する。
 - (2) 英語教育に関わる基礎的事項等についての調査活動を行う。
 - (3) 英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究活動を行う。
特に小学校における外国語活動との関連に留意した研究を充実する。

4. 英語教育に関わる関係機関や関係団体との連携を図る。
 - (1) 「全英連中学部会」との関わりを一層深め、外部機関に主体的に発信できる組織作りを目指す。
 - (2) 文部科学省、東京都教育委員会はじめ各種教育研究団体等との関わりをより充実させる。
 - (3) 今年度開催の全英連東京大会の運営に主体的に取り組む。

5. 英語教育に関わる各種情報の収集・発信を進める。
 - (1) これまでの広報媒体を活用して、各種情報の発信を行う。
 - (2) HP の活用を図り、それを通して各種情報の受信・発信を行う。
 - (3) 各地区との連携を進め、情報の共有化に留まらず相互協力による事業を推進する。

目 次

●英語教育改革激動期にいる幸せと責任	重松 靖	1
●新学習指導要領実施から2年～「旬」な話題を少し～	平木 裕	2
●東京都教育委員会より	窪田 香	4
●東京都教職員研修センターにおける外国語(英語)に関する研修について	田中 春子	6
実践研究		
(1) 英語学芸大会 Playの部 優勝 学年全員で創ったゲン	北原 延晃	7
(2) 英語学芸大会 Speakingの部 優勝 想いを言葉に乗せて表現することの素晴らしさ	尾賀 弘美	8
(3) 平成25年度 東京都教育研究員中学校外国語部会 発信力を高めるための4技能の総合的な指導の工夫	東京都教育委員会	9
(4) 平成25年度 東京都研究開発委員会中学校外国語 4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成 ～文法指導と言語活動の一体化を通して～	東京都教育委員会	13
(5) 東京都中学校英語教育研究会・研究部・公開授業 「辞書指導の研究と指導の効果の検証」	金子健次郎	16
(6) 24道場 中学校外国語(英語) 「守」から「破」、さらなる授業改善へ	柴野 泰行	18
(7) 24道場 中学校外国語(英語) 自分の授業を180度変えた「教師道場」	三上健二郎	19
(8) 聞くことと書くことを統合する指導について 内容に一貫性のある文章が書ける指導の工夫	紺野 正典	20
●各部報告		
・総務部報告	飯島 光正	22
・事業部報告	横山 達也	23
・調査部報告	五十嵐浩子	25
・研究部報告	北原 延晃	26
・プロジェクト・チーム部報告	斉藤 節子	26
・出版部報告	池田 武男	27
●研究大会報告		
・第53回 大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会(千葉大会)	福井 正仁	28
・全英連報告 第63回全国英語研究団体連合会総会 第63回全国英語教育研究大会(東京大会)	惣田 修一	29
・第37回 関東甲信地区中学校英語教育研究大会(群馬大会)	飯島 光正	30
●各地区の活動状況		31
●中英研事業報告		58
●中英研会則		60
●役員一覧		62
●顧問一覧		66
●参与一覧		67
●あとがき		68

英語教育改革激動期にいる幸せと責任

会長 重松 靖
(東京都中学校英語教育研究会)

昨年12月、文部科学省は「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」（以下「実施計画」）を公表しました。小学校段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進め、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図ろう、というものです。2014年度から逐次改革を推進し、2020年(平成32年)の東京オリンピック・パラリンピックの年に本格展開を目指すとしています。

平成15年の「『英語が使える日本人』育成のための行動指針」（文部科学省）に始まり、平成18年「小学校における英語教育について」（中教審外国語専門部会）、平成20年「学習指導要領」告示、平成23年「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」（文部科学省）とこの10年間、英語教育に対して様々な提言がなされ、学習指導要領も改訂されました。そして今、さらなる改革案が示された訳です。

「実施計画」では、「小学校中学年で週に1～2時間学級担任を中心に活動型の授業を行い、小学校高学年では専科教員を積極的に活用して週3時間程度教科型の授業を行う。中学校では、卒業までに英検3級～準2級程度の英語力を身につけ、高等学校では英語話者とある程度流暢にやりとりができる能力を養う」となっています。また、「『英語を用いて何ができるようになるか』という観点から目標を具体化し、小中高を通じて一貫した学習到達目標を設定する」とあり、到達目標をCAN-DOリストの形で設定するそうです。ターゲットセンテンスを使ってゲームをしたり、元気に音読をしたりするだけの授業から、実際に何ができるようになるかを考えて授業をプランニングしなければなりません。

今、私たちは、英語教育の歴史的転換期のただ中にいます。言うまでもなく、英語教育を変革するのは私たち英語科教員自身です。その誇りと責任を決して忘れてはいけません。

東京都中学校英語教育研究会としても、各地区とのネットワークをさらに強化し、新たな英語教育の推進に尽力します。皆さんの力を結集し、「東京からの英語教育改革」を発信していきたいと思えます。

新学習指導要領実施から2年

～「旬」な話題を少し～

国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官 平木 裕

当会報への寄稿も、これで5年連続となった。小学校及び高等学校との接続、指導と評価の工夫、単元構想の在り方、といった視点で、中学校における外国語教育の目指すべき方向についてこれまでお話ししてきた。今回は、そのことを踏まえつつ、「旬」な話題を少し提供したい。

「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標を設定

このところ「CAN-DO リスト」という言葉が中・高等学校で飛び交うようになったが、これは、平成23年に公表された「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」の中で、提言の1つとして「生徒に求められる英語力について、その達成状況を把握・検証する」ことが示され、そのための具体的施策が、「中・高等学校は、学習到達目標を『CAN-DO リスト』の形で設定・公表するとともに、その達成状況を把握する」となっているためである。

この提言の趣旨は、英語を用いてどんなことができるようになるかという観点から、生徒が身に付けるべき能力を各学校が技能ごとに明確化することにある。提言を受け、文部科学省では、各学校における学習到達目標の設定やその活用に応じた参考となるよう、平成25年3月に「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DO リスト』の形で学習到達目標設定のための手引き」（以下「手引き」）を作成・公表している。前段では学習到達目標を設定することの趣旨や設定手順、その活用方法などを、また p.16-18 には中学校での設定イメージを掲載しているので、ぜひ参照してほしい。

そのイメージからも明らかであるが、学習到達目標を設定することと、年間を通した4技能のバランスに配慮しながら各単元で身に付けさせたい力を明確に定めることは、表裏一体の関係にある。例えば、第3学年の「読むこと」において「ある程度の長さの物語を読んで、登場人物の行動や話の流れなど、あらすじを読み取ることができる」という学習到達目標を設定したとすれば、ある単元で「時間軸に沿って物語のあらすじを読み取る」と目標を立てて指導する、といったことが考えられる。このことに関連して東京都教職員研修センターでの取組をかいつまんで紹介してみよう。

同センターでは、「CAN-DO リスト」の形で学習到達目標のモデルとして「英語で表現できる実践的な運用能力に関する系統表」（以下、「系統表」）の作成に取り組んでいる。ポイントは、その系統表を作成して終わりにせず、前述の「手引き」でも強調しているとおり、単元の目標設定に活用している点である。具体的には、単元の指導計画の中に「系統表との主な関連」という項目を設け、その単元で付けたい力として位置付けるとともに、「単元の指導目標」にもそれが明確に反映されている。このことにより、身に付けるべき能力を生徒にも意識させることができる。

このように、設定した学習到達目標の達成に向け、現在の年間指導計画や単元計画を見直しながら日々の授業改善を図ることこそ、提言の真の意味があることを付け加えておきたい。

中学校でも「授業は英語で行うことを基本とする」

昨年12月に文部科学大臣が発表した「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」には、「(中学校において) 授業は英語で行うことを基本とする」ことが明記された。このことを中学校の先生方はどう受け止めたのだろうか。「日本語で授業をしても十分理解ができない生徒に、英語で授業は無理だ!」といった短絡的な不安や苦言か、はたまた「そんなのとっくに実践している!」と胸を張るのか…。ここで改めて考えてほしいことが2つある。それは、

①高等学校ですでに導入されているこの規定の趣旨は何か

②この計画で中学校には何を求めているのか

ということである。

①は、高等学校学習指導要領から明らかなおお、**「生徒が英語に触れる機会を充実すること」「授業を実際のコミュニケーションの場面とする」**ことである。要は、生徒の英語による言語活動を中心に展開する授業を工夫する、ということに尽きる。これは、はたして中学校には無縁の話なのだろうか。

②については、それで半分答えが出ているが、発表された計画には**「授業は英語で行うことを基本とし、内容に踏み込んだ言語活動を重視」**という示し方もされていることに留意してほしい。教科書本文を単なる音読の材料にとどめたり1文1文の意味を確認するだけで終わったりするのではなく、その題材内容をベースに、4技能を駆使してコミュニケーションを図るような単元展開、まさに**「教科書で」**教えるイメージが大切なのである。

おわりに

今年度は、北海道から沖縄県まで全国約70の研修会におじゃました。新学習指導要領もようやく軌道に乗ってきたところであるが、授業時数増の効果的な活用、小学校・高等学校との連携やそれを生かした授業改善など、まだ課題は多い。今回のメッセージは、将来を見据えつつ**「今」**をどうするか、である。5年連続というのは1つの節目であり、これが the last message になるかもしれない (ならないかもしれない)。

東京都教育委員会より

東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課 指導主事 窪田 香

東京都中学校英語教育研究会におかれましては、英語教員の資質向上、中学校英語教育の充実等、ご尽力されていることに、深く敬意を表します。

新聞等でも盛んに報道されているように、今、英語教育は大きな転換期を迎えていると言えます。小学校での指導の早期化・教科化、中学校での英語による英語指導、小・中・高を見通した指導等、直接的に中学校英語教育に影響ある変革が起きようとしています。

その中で、平成25年度、東京都教育委員会では、研究開発委員会、教育研究員等、英語に関する研究を行い、教育課題に関する指導資料作成、調査研究を行ってきました。

研究開発委員会では「4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成～文法指導と言語活動の一体化を通して～」、教育研究員では「発信力を高めるための4技能の総合的な指導の工夫」という研究主題で研究を深め、研究発表、冊子を通して成果報告をさせていただくところです。

この2つの研究の中で共にキーワードとしたのが「4技能の統合」です。自らの考えなどを英語で相手に伝えるための「発信力」育成には4技能のバランスよい指導、CAN-DOを意識した生徒と教師との目標共有と段階を踏んだ指導などが重要であることを研究により明らかにすることができました。ぜひ、これらの研究成果をご指導にお役立ただければ幸いです。

「東京で開催されるオリンピック」、「グローバル人材を育てる」といった話題が頻繁に英語教育とともに語られています。英語を言語として教えるだけでなく、生徒の将来を見据えて、世界への第一歩となるような英語授業が英語科の教員に求められています。世界と生徒の現実社会が英語授業をとおして繋がる、そんな授業が実現されていくように、東京都教育委員会では来年度も英語教育の充実に向けて尽力してまいります。

終わりに、本研究会で、英語教育の一層の充実に向けた取り組みを進めていただくとともに、益々のご発展と会員の皆様のご活躍をお祈りいたします。

東京都教職員研修センターにおける 外国語（英語）に関する研修について

東京都教職員研修センター 指導主事 田中 春子

平成 25 年度の外国語（英語）に関する専門性向上研修は下記のとおり実施され、多くの先生方が受講されました。

＜専門性向上研修 外国語活動ⅠA＞（全 3 回）

「伝え合う楽しさを実感させる小学校外国語活動の授業づくり」

- ねらい… 小学校外国語活動の「目標及び内容を理解するとともに、具体的な教材や授業展開、基本的な指導方法、学習評価について学ぶ。
- 特 色… 津田塾大学との連携により、授業で使用する教材を用いて、体験的に学ぶ。授業研究を通して、授業展開や教材活用について学ぶ。
- 講 師… 津田塾大学オープンスクール講師 他

＜専門性向上研修 外国語活動ⅡA＞（全 2 回）

「“Hi, Friends!” を活用した外国語活動の授業づくり」

- ねらい… 新たな外国語教材 “Hi, Friends!” への理解を深め、“Hi, Friends!” の授業での効果的な活用の仕方、教材開発の方法、学習指導や学習評価の考え方等について学ぶ。
- 特 色… 教科調査官から、“Hi, Friends!” を使った授業の在り方や活用の仕方、学習評価の考え方について学ぶ。
- 講 師… 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 直山 木綿子 先生 他

＜専門性向上研修 英語ⅠB＞（全 3 回）

「英語科における授業づくりの基礎・基本」

- ねらい… 学習指導要領の目標及び内容等を理解し、学習到達目標を「Can-Do リスト」の形で設定する基本的な指導計画づくりや授業展開、学習評価について学ぶ。
- 特 色… 学習指導要領の改定の趣旨を踏まえ、英語科における学習活動の在り方や学習評価、学習指導案の作成上の留意点について学ぶ。
- 講 師… 東京学芸大学 特任教授 金谷 憲 先生
東京外国語大学 教授 根岸 雅史 先生 他

＜専門性向上研修 英語ⅡB＞（全 3 回）

「英語科における 4 技能を育成する授業づくり」

- ねらい… 英語科における 4 技能を、総合的に育成する授業づくりについて学ぶ。
- 特 色… 津田塾大学との連携により、同大オープンスクール講師から 4 技能に関する具体的な指導の工夫や、新しい学習評価の考え方について学ぶ。
- 講 師… 津田塾大学オープンスクール講師 他

＜専門性向上研修 英語ⅡC＞（全 2 回）

「英語教育の今日的課題と指導の在り方」

- ねらい… 英語教育の今日的課題やこれからの指導と評価の在り方を理解し、

中学校・高等学校の円滑な接続を図る工夫について学ぶ。

○特色… 上智大学との連携により、「これからの英語教育」についてオールイングリッシュによる講義・演習を行う。

○講師… 上智大学 教授 吉田 研作 先生

＜専門性向上研修 英語Ⅲ＞（全4回）

「英語で行う英語の授業の意図と実践」

○ねらい… 英語教育の今日的な課題や英語で行う授業の進め方を理解し、指導方法や指導体制の工夫について学ぶ。

○特色… 学習指導要領の改訂の趣旨や、今日的な英語教育の課題について理解を深める。2回の授業研究を通して、英語で授業を行うための指導方法の工夫について具体的に学ぶ。

○講師… 文部科学省初等中等教育局 視学官 太田 光春 先生
新潟大学 教授 松沢 伸二 先生 他

＜進学指導のための授業力向上研修E＞

「大学への進学指導を重視した「英語」の指導の工夫」（全3回）

○ねらい… 都立高校改革推進計画に示された「進学指導の充実」を踏まえ、昨今の大学入試の現状と課題について学び、進学指導を重視した英語の実践的な指導力を高める。

これらの教科指導に関わるもののほかにも、下記のように外国語（英語）に関する研修を実施した。

＜夏季集中講座＞

「海外派遣教員による外国語教育の実際」

○ねらい… グローバル化が進展する中、異なる文化を理解したうえで国際社会の一員として活躍できる人材が求められている。そうした人材の育成を目指す教育について、海外派遣教員からの報告等を通して学ぶ。

「国際バカロレアにおける教育プログラムの理解と実際」

○ねらい… 国際社会を舞台に活躍し、日本社会を牽引する次代を担う人間育成のため、都立高校の一部に導入が検討されている世界の有力大学で入学資格を認められる「国際バカロレア」について、認定校の実践事例を交えて詳しく紹介する。

学年全員で創ったゲン

港区立赤坂中学校 教諭 北原 延晃

12月1日（日）に行われた第66回東京都英語学芸大会で優勝することができた。他校のように選ばれた生徒たちでなく、学年全員で作上げた劇だけになおさら嬉しい。優勝のポイントは次の4点ではないかと思っている。

1. セリフは自分たちで英訳した。

既存の英語版はだしのゲンの英語は難しい。演じている方も見ている方もわからないと思い、9月の3時間を使って日本語のシナリオを著者の許可を得て3年生全員で英訳した。もちろん、ALTやJTEの助けやチェックは受けたが、自分たちで訳した言葉だからこそ演技に気持ちが入ったと思っている。

2. 過去4回の演劇指導を受けている。

本校では学芸発表会と3年生を送る会の年2回に演劇を上演する。最初は新採以来ずっと演劇指導をしてきた私が演出したが、徐々に生徒に任せていった。今回は演出家と舞台監督にほとんどを任せた。役者はもちろん、脚本委員会や裏方もベテランの生徒がこれまでの演劇経験をいかんなく発揮してくれた。本当に生徒が自分たちの手で創り上げた劇だ。

3. 発音がよい。

全国からの授業参観者が必ずおっしゃるように生徒全員の発音がよい。これは1年生の頃からの努力の成果だと思う。ジェスチャーをつけて話すことも1年生の時からずっと行ってきた。その他、各種スキットやスピーキングテストの経験が生きたと思う。要するに授業の最終到達点としての「はだしのゲン」なのである。

4. 気持ちがこもっていた。

本校では3度目のHiroshima Requiemである。広島・長崎に毎年行って資料を集めている私の気持ちが生徒に乗り移ったと思った。朝読書や昼休み、放課後などに「はだしのゲン」や原爆関連の図書を見ている生徒が多かった。3回あった本番（本校学芸発表会、区大会、都大会）の幕開け直前では全員がステージに集まり、演出家の生徒の号令のもと、広島・長崎の被爆者、犠牲者と昨年亡くなった作者の中沢啓治さんへの黙祷を行った。「戦争はいけない、原爆は悲惨だ」を伝える力にあふれていたと思う。また、原爆の悲惨さを強調する場面よりも主人公ゲンが力強く生きていく様を中心に演出したのもよかったと思う。教員生活最後の英語劇を優勝の2文字で飾ってくれた生徒や同僚に心から感謝したい。

想いを言葉に乗せて表現することの素晴らしさ

荒川区立第四中学校 主任教諭 尾賀 弘美

この場をお借りして、都中学校英語学芸大会を運営してくださった先生方、関係者の皆様方に感謝をお伝えしたい。生徒たちに、このような英語による自己表現の場を作っていたいただき、本当にありがとうございます。

本校の倉地愛羅さんが、Speakingの部第1位という栄えある賞をいただいたことは、幸運であると同時に努力の結晶であったと言う他にない。彼女は小学校卒業と同時にフィリピンから日本に移住し、本校に入学した。初めは日本語が全く理解できない中で、同じフィリピン出身の外国人講師である加藤カレン先生にタガログ語で話を聞いてもらい、少しずつ日本の中学校生活に慣れていった。しかし、思春期という、ただでさえ難しい時期に、文化も考え方も異なるクラスメイトたちと友人関係を築いていくことは、予想した以上に大変だった。彼女は、その時の辛さや苦労を、今回のスピーチの中で率直に述べている。そして、それを温かく支えてくれた母親への感謝と愛情を、ありったけの想いをこめて全身で表現した。それが観客と審査員の心に届いたからこそその受賞だったのだと思っている。

練習が始まったのは、9月初旬だった。11月に行われる荒川区中学校英語スピーチコンテストで優勝することを目標に、まずは原稿を書くところから始まった。自分で長文にわたるスピーチを書くことはほぼ初めての経験だった。彼女がつけたタイトルはThe Greatest Gift I've Ever Had。母親が苦労しながら3人のこどもを育てたこと、日本に来て悩み辛かった時にも、いつも“Never give up.” “You can do it.”という言葉で励ましてくれたこと、自分にとって母親がいかに大切な存在かということなどを述べていた。良い内容ではあったが、個人的な感情だけにとどまらず、「母親とはこどもにとってどのような存在か」という普遍的なテーマに近づけるよう、何度も書き直しをした。

原稿が出来てからはほぼ毎日練習をした。音読から暗唱へ、時間を計りながら表現の工夫を重ねた。何時間、何日費やしたことだろう。練習を重ねる中でスピーチが彼女自身の言葉となっていった。目標だった区のスピーチコンテスト優勝を成し遂げ、都の英語学芸大会に出場一。本番、舞台上の彼女を見ながら、自分自身の想いを言葉に乗せて表現することの素晴らしさを、私は改めて胸に刻みつけた。

倉地さんのスピーチ指導は本校の外国人講師加藤カレン先生の献身的な努力による所が大きい。この会の運営に関わる全ての皆様への感謝とともに、ここに心からの感謝を述べておきたい。

発信力を高めるための 4 技能の総合的な指導の工夫

東京都教育委員会

I. 主題設定の理由

「中学校学習指導要領解説外国語編」では、外国語科改訂の基本方針として、「自らの考えなどを相手に伝えるための『発信力』やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成を重視する観点から、『聞くこと』や『読むこと』を通じて得た知識などについて、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、『話すこと』や『書くこと』を通じて発信することが可能になるよう、4 技能を総合的に育成する指導を充実する。」(文部科学省 平成 20 年 9 月) ことが示されている。

また、「国際共通語としての英語力向上のための 5 つの提言と具体的施策」(外国語能力の向上に関する検討会 平成 23 年 6 月) には、「グローバル社会で求められる外国語能力とは、異なる国や文化の人々と外国語をツールとして円滑にコミュニケーションを図ることができる能力と言える。例えば、異なる国や文化の人々と臆せずに積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や、相手の文化的・社会的背景を踏まえた上で、相手の意図や考えを的確に理解し、自らの考えに理由や根拠を付け加えて、論理的に説明したり、議論の中で反論したり相手を説得できる能力などが挙げられる。このようなコミュニケーション能力を育成するためには、講義形式の授業から、例えば、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどを取り入れることにより、生徒の言語活動を中心とした授業へと改善を図る必要がある。」と示されている。

このように、「社会や経済のグローバル化の急速な進展に伴い、単に受信した外国語を理解することにとどまらず、コミュニケーションの中で自分の考えなどを相手に伝えるための『発信力』を育成」(中央教育審議会答申 平成 20 年 1 月) し、実際にコミュニケーションを目的として英語を運用していくためには、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の 4 技能を「統合」すなわち、4 技能を関連付け、複合的に活用する言語活動を取り入れた指導が重要であると本研究では考えた。

「各中・高等学校の外国語教育における『CAN-DORIST』の形での学習到達目標設定のための手引き」(文部科学省 平成 25 年 3 月) では、学習到達目標を「CAN-DORIST」の形で設定することにより、「グローバル社会に通用する高度な英語力の習得を目指すことのほか、学習指導要領の内容を踏まえた指導方法・評価方法の工夫・改善を行うことや、4 技能を有機的に結び付け、総合的に育成する指導につなげること、また、教師と生徒が外国語学習の目的を共有すること」ができることとされている。これらのことを踏まえ、本研究では、学習到達目標を「CAN-DORIST」の形で具体的に設定し、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を充実させ、4 技能を「総合的」すなわち、バランスよく 4 技能を育成できる言語活動を行うことで、外国語を用いて自らの考えや気持ち、事実などを相手に伝える「発信力」を高め、同時にグローバル社会で求められる前述したようなコミュニケーション能力の育成を目指すものとし、研究主題を「発信力を高めるための 4 技能の総合的な指導の工夫」と設定した。

Ⅱ. 研究の視点

本研究では、学習指導要領の目標等に基づき、4技能の総合的な指導法の工夫を行う。また、指導者と学習者が外国語学習の目的を共有するために、教育研究員が所属する各学校の状況や生徒の実態などを踏まえたうえで、「CAN-DOリスト」の作成を行う。

Ⅲ. 研究の方法

1 基礎研究

学習指導要領に示された目標や内容などを分析し、教育研究員それぞれの授業実践報告を通じて、教科書教材を活用した「発信力」を高める4技能を統合した言語活動の在り方を協議した。その上で、「受信する→考える→発信する」学習プロセスを意識した言語活動を教科書の単元毎に提案・実施することとした。また、CEFRの日本版英語能力到達度指標（CEFR-J）などを参考に、生徒の学習の状況や実態などを踏まえて「CAN-DOリスト」を作成した。

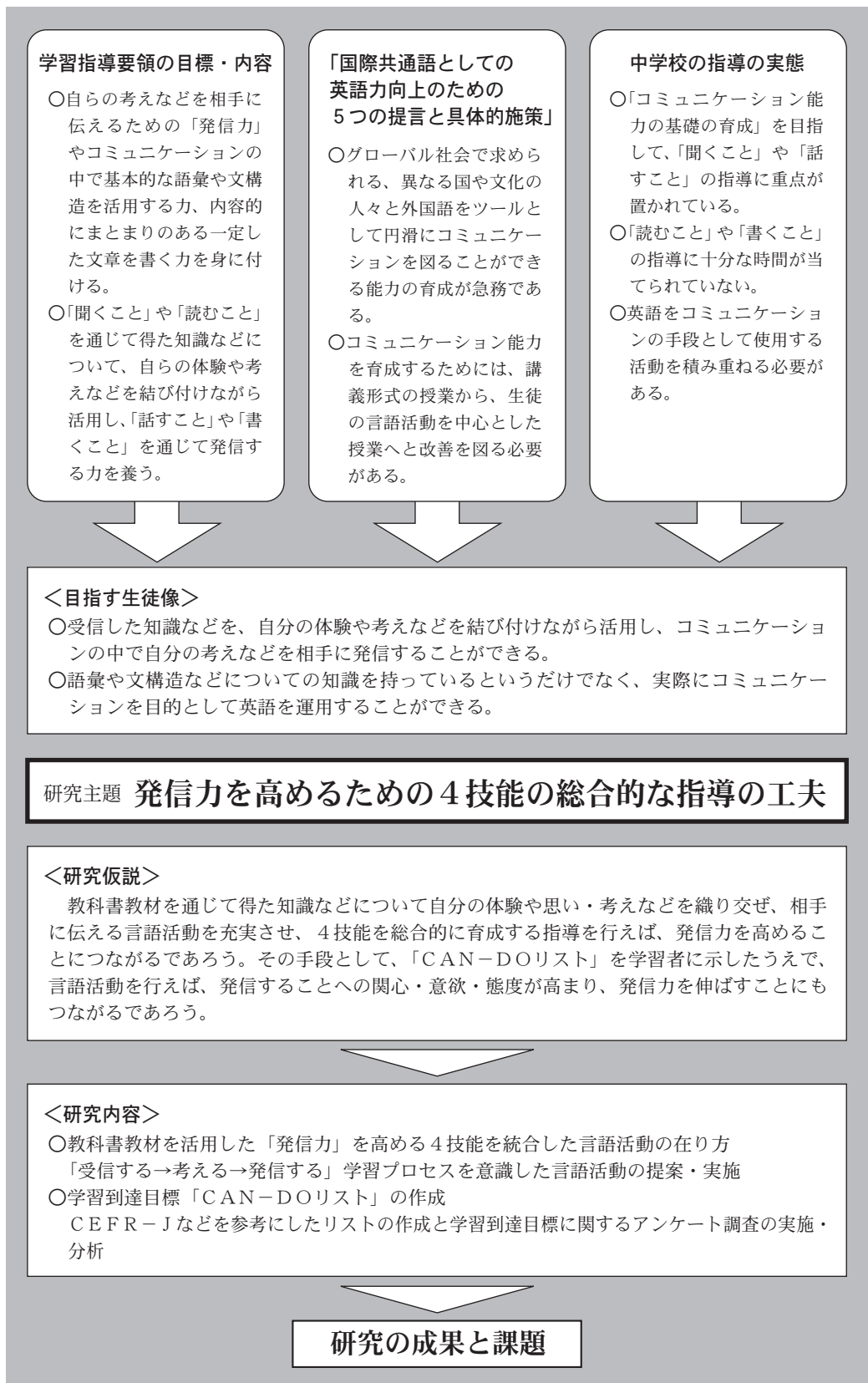
2 調査研究

基礎研究で作成した「CAN-DOリスト」をもとに、英語を使って「できること」を診断するアンケート（英語力「できること」調査）を作成した。そして、教育研究員の所属校において、生徒を対象とした調査を実施し、生徒の学習到達目標の達成度を把握した。

3 授業の実践

「CAN-DOリスト」を示し、教科書等で「聞くこと」や「読むこと」を通じて受信した知識を、自らの体験や考えなどに照らし合わせ、「話すこと」や「書くこと」を通じて自分の体験や思い・考えを相手に伝える活動を充実させれば、発信力を高めることにつながるであろう、という仮説をたてた。そして、基礎研究、調査研究の結果を踏まえ学習指導案を作成し、教育研究員の所属校において検証授業を行った。

IV. 研究構想図



V. 研究の成果と課題

主題設定の理由で取り上げた「国際共通語としての英語力向上のための5つの提言と具体的施策」にある「スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどを取り入れることにより、生徒の言語活動を中心とした授業へと改善を図る必要がある」を受け、今までは教科書教材の内容理解に指導の重きを置くことが多かった授業を、教科書教材を用いて4技能を統合した活動を取り入れた授業へといかに変えていくかについて話し合いを重ねた。教科書の内容を理解した上で、教科書の本文やそこで学習した文構造を活用して、自分の体験や思い・考えを相手に伝える活動に着目し、各教科書の単元終了後に取り組むことのできる活動を検討した。それが本部会で作成した各教科書の「発信力を高める言語活動例」である。

活動例を検討するに当たり、発信力を高めるためにどのような活動が効果的なのか繰り返し話し合いをした。読んだり、聞いたりして受容した知識などを自分の体験や思い・考えなどと結び付けながら活用して相手に発信するためには、文構造だけでなく、教科書教材の内容も理解した上で取り組むことのできる活動が効果的であることを確認した。

これらの活動を取り入れることで、教科書教材の内容理解に始まり（受信する）、教科書教材から得た情報を自分の体験や思い・考えを表現するために選択して整理し（考える）、文章で表したり、口頭発表（発信する）したりすることへとつなげることができる。教科書教材の内容理解にとどまらず、それを応用することで、文構造の定着、教科書本文や既習の表現を活用して自分の体験や思い・考えを伝える発信力や発信しようとする意欲を喚起できることがわかった。検証授業では、教科書の内容理解した（「受信」した）上での活動のため、生徒たちの取組はスムーズで、教科書の表現を用いながら意欲的に自分の体験や思い・考えを発信しようとする姿が見られた。また、こうした活動を各単元のまとめとして行うことにより到達目標を明らかにすることができるため、生徒の発信することへの意欲、教師の4技能を総合的に指導するという意識を高めることにもつながることが分かった。

しかし、こうした活動はある単元で単発的に取り入れても十分な成果をあげることはできない。「発信力を高める言語活動例」のような言語活動を計画的、継続的に取り入れることで、生徒たちが多くの情報を受信し、得た情報から表現する内容を考え、自ら表現しようとする意欲を高め、発信力を向上させることにつながると考えられる。3年間を見通して、どのような力をつけるためにどんな活動が必要なのかを教師がしっかりと把握し、計画的に4技能を総合的に指導していく工夫が求められる。最終到達目標を確認し、そこに至るまでに段階を経た効果的な指導を工夫していくためには、CAN-Dオリストを活用することが効果的であることが明らかになった。

4 技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成 ～文法指導と言語活動の一体化を通して～

東京都教育委員会

I. 研究の目的

昨今、社会のグローバル化により、外国語教育の一層の充実が求められている。平成 15 年に文部科学省から出された「英語が使える日本人」の育成のための行動計画によると、「英語が使える」ようになるためには、文法や語彙などについての知識を持っているというだけではなく、実際にコミュニケーションを目的として英語を運用する能力が必要だとされている。

今回の学習指導要領でも、小学校の外国語活動で培われた音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度に加え、中学校では「読むこと」及び「書くこと」を加えた 4 技能の総合的な指導を通して、それらを統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成することが求められている。

これまでの英語教育で課題とされてきたことは、入試を目的とした英語学習に偏りがちになり、コミュニケーション能力としての英語運用力が不十分という点である。従来から行われてきた文法事項の解説や教科書の訳読といった指導方法も、言語の構造を理解するといった点では効果的と考えられるが、近年求められているグローバル人材の育成・コミュニケーション能力の育成という観点から考えると、その目的にかなった指導方法の改善が必要となってくる。平成 20 年の中央教育審議会答申においても、「中学校・高等学校を通じて、コミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力が十分身に付いていない」ことが課題として指摘されている。

現在の授業では多くの言語活動が取り入れられているが、文型のドリルにとどまり、自分の気持ちや考えを表現する活動には至っていないものや、逆に十分な文型練習を行わずに表現活動を行おうとして、生徒が苦手意識を持ってしまう場合が見受けられる。小学校段階での外国語活動ではコミュニケーションを楽しんで行っていた生徒が、中学校に入り、語彙や文法指導において難しさを感じ、英語の楽しさを実感出来ずに苦手意識を持ってしまうこともある。

これらのことから、文法指導を行う上で「習得」型、「活用」型の言語活動をバランスよく授業に取り入れ、基本的な語彙や文構造を定着させた上で、コミュニケーションの楽しさを実感させる活動の工夫が必要である。コミュニケーション能力の育成には 4 技能を偏りなく指導するとともに、いくつかの技能を統合させてコミュニケーション活動が成り立つことを踏まえ、それらを統合的に活用できる能力の育成が必要であると考え、研究主題を「4 技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成」、副主題を～文法指導と言語活動の一体化を通して～とした。

II. 研究構想図

社会的背景

1. 知識基盤社会化…新しい知識・情報・技術の重要性が増す時代
2. グローバル化…異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性の拡大
3. 国際化の一層の進展…外国語教育の一層の充実

中学校学習指導要領 外国語科の目標

- 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深める
- 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- 聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

中学校の指導の実態

- 小学校の外国語活動でコミュニケーションの素地が育成されつつあるが、中学校に入り、語彙や文法指導の難しさに英語を苦手と感じる生徒がいる。
- 4技能のうちのいくつかを統合させたコミュニケーション能力に課題がある。

<目指す生徒像>

- 自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」がある。
- コミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力がある。
- 「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することができる。

研究主題 4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成 ～文法指導と言語活動の一体化を通して～

<研究仮説>

文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、言語活動を工夫すれば、基本的な語彙や文構造の習得だけにとどまらず、4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成することができる。

<研究内容>

統合

4技能のうちのいくつかを統合させたコミュニケーション活動

習得

文法事項等の言語材料について理解したり練習したりする学習活動

活用

実際に言語を使用して互いの考えや気持ちを伝える学習活動

研究の成果と課題

Ⅲ. 研究の成果と課題

本研究では、4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成をめざし、活動や指導法を工夫して、検証授業を行った。

検証授業1では「書くこと」「話すこと」を【統合】し、現在分詞及び過去分詞による後置修飾を【習得】する過程で、「オリジナルクイズの作成・発表」を取り入れた。クイズの作成【活用】、グループで協力して発表し、他グループのクイズに答える【統合】と段階を踏んで、【活用】から【統合】へと発展させることで、生徒の英語を話す意欲が高まり、生き生きとしたコミュニケーション活動につながった。

検証授業2では「話すこと」「聞くこと」を【統合】し、不定詞を【習得】する過程でスピーチを取り入れた。互いの考えや気持ちを伝え合う場面を設定し、習った文法を【活用】させた。スピーチを個人練習からペア練習へ、そしてグループ内発表へと段階を踏んで、【活用】させる機会を増やし、スピーチを聞き合い、アドバイスする機会を設けることで、自信や意欲をもって互いの考えや気持ちを伝え合う姿が見られた。

2つの検証授業の中で、言語材料や表現を【習得】し、【活用】し、そして【統合】させるという活動場面を明確に設定し、指導の工夫を図ったことにより、教師と生徒、あるいは生徒同士が英語でコミュニケーションを行う機会が増えた。また発話の内容についても、自分の考えを英語で表現する実際のコミュニケーション場面に即したものとなり、「発信力」を高めることに結びついた。

こうした生徒主体の学びを実現するために必要なことは、生徒の意欲を喚起する活動場面の設定である。生徒が主体的に表現できる活動内容を用意すること、また語彙や文型の定着を図る指導の際には、ドリル練習のみを行うのではなく、授業中の教師と生徒、あるいは生徒同士のsmall talkやQ and Aを活用するなど、より実際のコミュニケーションに近い言語活動の工夫と、その積み重ねが必要であることが確認できた。

本研究では、検証授業1で「書くこと」と「話すこと」、検証授業2で「話すこと」「聞くこと」と4技能の統合的な活動の一部の検証を行ったに過ぎない。コミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用し、内容的にまとまりのある文章を書く力を付けるなど、表現力を高めるためにはまだ活動の工夫が必要である。4技能の統合の仕方についてはさまざまな形が考えられるが、コミュニケーション能力の育成を効果的に図るために、どのような統合パターンが良いのかさらに研究を深める必要がある。また本研究で、授業の活動の中で生徒の発話の意欲が高まる様子が見られたが、今後は実際の使用場面で適切な表現ができるように指導の工夫を図っていく必要がある。

東京都中学校英語教育研究会・研究部・公開授業
「辞書指導の研究と指導の効果の検証」

大田区立田園調布中学校 教諭 金子 健次郎

1. はじめに

研究部の平成24年度のテーマは「辞書指導の研究と指導の効果の検証」であった。平成24年度から新学習指導要領全面実施に伴い、辞書指導の充実がさらに期待される。そのため引き続き各部員が行った実践報告を元に研究を深め、指導の検証を行った。

平成25年2月22日に本校の体育館で研究部の公開授業・研究発表が行われ、222名の参観者の中で私は授業者を務めた。対象は自分が担任をしている1年生のクラスで、辞書指導を含めながら、過去形を含む教科書本文の内容理解と音読を主な目標とした。

2. 辞書指導

入学早々の保護者会にて、英和辞典の購入をお願いすることから始まった。その後、オリエンテーションの中で辞書の構造や引き方などの説明を行い、以降必ず一度は辞書を使用する場面を作った。このことで、辞書を持たない生徒や持ってこない生徒はほとんどいなくなった。次に「辞書引き競争」で辞書に興味を持たせ、教科書のPre-Lessonの「身の回りの英語」を実際に辞書で引かせることで辞書の実用性や有効性を確認させることができた。

中英研・研究部の具体的な辞書指導の研究に関しては平成22年度から行われた。まず、現在研究部長である北原延晃教諭の実践報告を聞いた。その報告で、カテゴリー（下記参照）を作ることから始まり、次に自分が使用している教科書の英単語をその作成したカテゴリー別に分ける。その後、授業に合わせて事前に引かせる単語（1語から多くても2語や3語）を決めて、「生徒たちが一番興味・関心がある箇所や時点を逃がさず引かせる」ことを確認した。

※カテゴリー：基本動詞、多義語、前置詞、他品詞語、接頭（尾）辞、冠詞、連語など

研究部員は、各教科書のカテゴリー表の作成のために、同じ教科書を使用している部員で協議分担して3年間分のカテゴリー表を作成した。次にその表を元に、自分が担当している生徒の習熟度や心身の発達に応じて引かせる英単語を事前に選択して授業に臨んだ。その後、実践報告を持ち寄り研究を深め、指導の検証を続けている。

自らの指導において、教科書の本課に入る前に以上のような辞書指導研究や検証を行っていたので、生徒の実態に照らし合わせながら、余裕を持って、「生徒たちが一番興味・関心がある箇所や時点を逃がさず」適切な語を引かせ始めることができたと思われる。ただ単に該当する単語を引かせるだけでなく、マークを付けさせたり、例文を読ませたり、周囲の関連語や語句に注意させたりすることで、一層の好奇心を喚起した。また初期の「辞書引き競争」の延長で、毎回「早く引くこと」を競争させた。これは競争意識と効率性の両面で生徒にとっても役立つものと思われる。

3. 公開授業の指導過程と辞書指導

1年生の初期の段階では前述のように辞書指導が、英語に対する意欲・関心と相絡ま

って効果的に行われた。しかし心身の成長と時同じくして知的好奇心も高まってくるので如何にその知的好奇心を満たすかが益々難しくなってくる。どの単語を引かせるかだけでなく、どの場面で引かせるかも重要と思われる。教科書の内容理解中の場面で引かせるということもあるが、自分の公開授業の場合は二度行った。絵やビデオ、地図などを見せながら本文の内容を導入した時と、その後の新出単語を提示する時である。詳細は以下になる。

一度目（内容導入時）・・・本文の舞台である Australia を辞書で引かせる。その時に Austral は「南の」を表し、Australia は「南の国」ということを分からせる。アウストラロピテクスは「南の原人」を意味することも知らせる。

二度目（新出単語提示時）・新出単語 did, receive, show, course, beautiful, sea の中であれば辞書が必要とされるのは receive だけである。という判断で引かせる。本文では二人の登場人物が電話でオーストラリアと日本で会話をするが、その会話を自分がモデルとなり再現する際に黒板消しを receiver として使う。その黒板消しを示すことで receive の意味を再確認させる。

Austral はジュニア辞書や語数の少ない辞書は掲載されていないので、前日に生徒の辞書を全てチェックする。掲載されていた辞書を持っていた二人の中から発表者を予め度胸のある生徒に決めておく。アウストラロピテクスの説明時には生徒から、「あ～、そうか。」という声が 2,3 名から聞こえる。receiver に関しては笑いのみ。

今回の公開授業は研究部員という立場上、当然のことながら、「辞書指導の実践報告」が主目的であるので、そこに多くの時間をかけた。途中で解答のない問題を解くが如く迷路に入った感があった。しかしその過程の中で考え尽くすことで生徒と同じ様に語いに関して、「あ～、そうか。」と言える場面に何度か出くわすことができた。また北原延晃部長をはじめとする研究部員、講師の田尻悟郎教授、研究部 OB 諸先生方、他県の先生にはこの場を借りて多大なるご迷惑をおかけしたことをお詫びを申し上げると共に感謝の意を表させていただきます。

4. おわりに

中英研が発行している「語いと英語教育」において、研究部の辞書指導の研究と指導の効果の検証の実例をご覧いただき、辞書指導の参考にしていただければ幸いである。

「守」から「破」、さらなる授業改善へ

リーダー 足立区立湊江中学校 主任教諭 柴野 泰行

東京教師道場の2年間は、とても充実していた。部員の先生方の授業をよりよく改善していきたいといった意気込みでみなぎっていた。24道場では、「活動につながりのある授業」をテーマにしていた。多くの先生が、つながりの先に教科書本文内容のretellingに向けて指導を行っていた。そこに至るまでの指導をどのように進めていけば良いのか、自分なりに考えて授業を創っていった。知識としては、多くの先生方は、指導のあり方を理解していたが、実際に授業を行ってみると手順がうまくいかないこともあった。でも、絶えず様々な工夫を凝らして、努力している姿勢を生徒たちは観ている。そこが一番授業で大切なところであろう。大いに評価できた。先生方の多くは、指導技術についてセミナーや書籍から多く学んでいる。授業についての改善策を話し合う際も、様々な意見やアイデアを出し合う。話し合っただけの課題を伝えると、改善できる先生方である。そのような若き先生方から多くの励みをいただいた。

部員の先生方の授業を通して、自分自身の指導を振り返ることができた。また、それと共に、授業のどの点を観て、どのようにアドバイスをしていけばよいのか常に考えることで、自分の授業づくりに多くのヒントや考えを与えてくれた。リーダーでありながら、部員の先生方から様々なアイデアや考え方を共有できたことは何物にも代えがたい経験であった。

私は、授業を観る視点を、主に①指導内容の目的と手順、②授業内容のわかりやすさ、③生徒の活動量の3つにしていた。①は部員が常に意識している事柄であった。多くの部員の授業の型は、内容の違いはあるが、しっかりしていて、指導の流れは似ている。この研修で、それぞれの活動の目的をしっかり踏まえて授業できるようになっていった。②については、常に教師であれば改善し続けていかななくてはならない課題である。さらなる改善に向けて努力し続けてほしい。中学校の授業では、コミュニケーション能力の向上という目的のために、表現力に焦点がいく。ICTを利用して視覚的でわかりやすい説明もあったが、時間が長い傾向がある。説明の仕方や板書のしかたなど、さらにより良い指導に向けて検討していく必要がある。③については、難しいことをやろうとすればする程、説明に充てる時間が長くなりがちで、生徒の活動時間・活動量が短くなる。生徒が教師の一言で何をすべきか理解できる程度までもっていくことが必要である。以上の3つは、主にhow to teachの事柄である。

茶道、武道、芸術などにおける日本文化が発展、進化してきた創造的な過程のベースとなっている思想に「守・破・離」というものがある。この教師道場では、「守」から「破」までの過程の研修であると思う。「破」に移行していけるために、もっとひとつ一つの活動について考え、生徒の反応や理解度を観て、指導を臨機応変に変えていけることが必要であろう。生徒のために、より良い指導のあり方を教師同士が切磋琢磨して、指導力の幅を広げることである。今まで、どちらかといえばhow to teachに視点が置かれていた。今後はwhat to teachの部分に焦点を置くことで、how to teachの部分の指導について議論がさらに深められると考える。深い内容理解であれば、どのような発問が考えられるか、そこに至るまでの指導はどうあるべきかなどである。

今後も多くの先生方が東京教師道場で研修され、指導力の向上を図り、生徒の学力向上に貢献できることを期待しています。部員としてだけでなく、リーダーとして研修させていただいたことに大変感謝しております。本当にありがとうございました。最後に部員の先生方、今後も共にがんばっていきましょう。

自分の授業を 180 度変えた「教師道場」

部員 江戸川区立篠崎中学校 教諭 三上 健二郎

道場の2年間で得たものは計り知れない。そして、これからもまだまだ成長していける。道場の修了式を前に自分はそう感じた。

授業の根本からすべて見直し、一つ一つの活動について徹底的に考え、鍛える。まさに授業力向上のための「道場」である。「鍛える」といっても、苦しい・辛いということは全く感じなかった。たくさんの仲間を支えられ、情報・技術を共有し、共に大きく成長することができた。そして、これからも自分の授業の課題を見つけ、改善し、成長していけると確信している。

「道場」は、自分の授業の課題を見つけることができる。道場に参加する前には、自分なりの授業の型を作って授業を行っていた。そんな自分を試すためにも道場の門を叩いた。結果は言わずと知れたものである。自信は崩れ落ち、たくさんの課題が見つかった。今回の道場のテーマである「活動のつながりを意識した授業づくり」を目指し、授業の活動すべてを隅々まで見直した。毎回の研究協議での、良い点、改善点、質問事項をまとめ、疑問や考え方など、一つ一つの活動を全員で検証していく方法は、大変勉強になった。すぐに自分の授業へと生かせる方法をたくさん学んだ。授業観察と研究協議を重ねていくたびに授業内の活動のそれぞれの意味や目的を理解できるようになっていた。諸活動にはそれぞれ意味があり、ねらいがある。これが不明確だと授業全体がマイナスに揺らぐ。生徒のためにどんな力を身に付けさせようとしているのか、そのためには何が必要なのかを毎回考えて授業を組み立てるようになった。道場で研修する前には、活動の冒頭で行っていたものが、現在では終盤で行うようになるなど、自分の授業は180度変わった。より効果的な指導法を求めて研究し、つながりを考えて授業に導入する。そこで満足せずに課題を発見し、さらに改善する。道場は、常に自分の授業を見つめ、よりよいものへと変えていくという自己診断と改善力を身に付けてくれた。

2年間の間に、教授やリーダーの先生方にはたくさんの助言・ご指摘をいただいた。4時間もマンツーマンで指導していただいたこともあった。部員の先生方とは授業のアイデアや活動についての考え方を熱く話し合った。教授、リーダーの先生方、部員の仲間がいてくれたから今の自分がある。道場で出会ったすべての先生方に感謝申し上げたい。道場での研修は終わるが自分の中では「道場」は終わっていないと思っている。これからも自分の授業を検証し、まだまだ成長し続けるという気持ちを持ちながら、常に道場を意識して授業づくりをしていくと決心している。

「学ぶ意欲の向上と、基本的な学習習慣の確立を図る効果的な指導の工夫と評価」

聞くことと書くことを統合する指導について

内容に一貫性のある文章が書ける指導の工夫

～ ディクテーション (dictation) とディクトグロス (dictogloss) を用いて ～

足立区立第六中学校 紺野 正典

1. この研究の動機、主題設定の理由

私は授業で、学習者がアウトプットする機会としてスピーキングテストを行っている。1分間で与えられたトピックについて外国人講師の先生と話をしたが、与えられたトピックについてある程度の準備はできても、当日先生に何を聞かれるかはわからない。生徒は、ある程度の英文を言えるようにして臨むが、用意してきた英文を一語一句そのまま覚える段階から、キーワードをもとにし、意味内容がはっきりしている内容語(名詞、動詞、形容詞など)を中心に英文を作らせる段階へと徐々にシフトさせている。大事なことは、完全な英文を復元することではなくて、むしろその内容を再現することにある。

授業でも、リプロダクション活動などでキーワードをもとにして英文を作成させている。この活動では、内容に重点が置かれるが、同時に文法にも意識が向き、再生させる中で、内容に一貫性のある英文を作成するのに役立つと感じている。

新学習指導要領「書くこと」の言語活動について3学年を通した指導事項には、(オ)自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。とあり、ここでも文と文のつながりを重視している。この文と文のつながりは、談話能力の1つでもありコミュニケーション能力を構成させる下位知識となっている (Canale, 1983) ことからわかるように、文と文のつながりを意識するよう指導することは、きわめて大切なことである。

しかし、われわれは授業で「内容に一貫性のある英文」を書かせることを目指しているながらも、日々指導の難しさを感じている。それは、一貫性のある英文を書けるようになる前に、基本的な英文が書けないという現実と直面するからである。そのため授業では毎時間、教科書1ページ分ディクテーションを行って正確に英文が書けるように訓練させている。ただ、これだけでは一貫性のある英文が書けるようにさせるには十分ではない。ディクテーションでは、主に言語使用の正確さを高めることがねらいだからである。

そんな折に出会ったのが、Wajnryb (1990) のGrammar Dictationという本である。この本の中で、ディクトグロスが紹介されている。ディクトグロスとは、「比較的短く、内容の濃いまとまった文章を、教師がふつうのスピードで数回読み、学習者はメモを取りながら聞き、聞き取ったことを基に、ペアまたはグループで協力してテキストを復元していく活動」と定義されています (Swain, 1998:70)。

Wajnryb (1990:6~7) によると「この英文復元法とも呼ばれるディクトグロスでは、『文法能力向上』と、学習者の作成した文を正確なものに訂正することで、『言葉を分析し選択すること』もできる」としている。この活動を通して、初級学習者である中学生が「内容的にまとまりのある英文を作成する力」をどれぐらい身につけることができるか、メモを取る中で「キーワード」を見つけて、英文を復元する過程で、学習者の復

元する言語にどんな変化が起こるかを研究したいと考えた。

2. 研究の方法

このディクトグロスは「聞いた内容を再生する」ことにあるが、その前段階のディクテーションそのものが、地区の先生方に聞くところによると、あまり行われていなかった。そのため、この活動を援用するには、さらに細かなプロセスを踏みながら、中学生にも合った形にしなければならないことが分かり、さらに細かくステップを3つ設けた。

Step 1：ディクテーション

Step 2：ディクテーション+創作活動

(与えられたトピックと単語で英文を創作する)

Step 3：ディクトグロス

また偏差値で生徒を3つのグループ(グループABC、1つのグループ12人)に分け、プレテストとポストテストで比較し、結果にどのような違いが生まれるかを研究することとした。

プレ・ポストテストにおける観点1として「代名詞、副詞(句)、接続詞などが適切に表現され、一貫性のある文章が書けているか」という項目を設けたが、『一貫性のある英文が作れること』の下位項目として以下の観点2から4も設けた。

観点2 - 語順 - SV やSVCなどの語順が正しいか

観点3 - 語法 - be動詞、一般動詞の使い分けができていないか

観点4 - ローカルエラー - 冠詞、時制、単数複数、ミススペリングがないか

3. 結果分析

生徒はステップを踏むことでディクトグロスを十分行えるようになり、十分この活動を行うことが出来たと実感している。生徒は、徐々に力をつけることができ、グループABC全体36名中32名が伸びを示したことは大きい。だが、グループAが一番伸びを示したことからわかるように、「内容にまとまりのある文章を書く」ためには、『書くこと』の下位項目である基礎・基本的な知識が十分に備わっていることが大事であること、さらにはこれらの知識がある程度ないと、「内容に一貫性のある英文を書くこと」も難しいということ、がこの研究からわかった。

(※和田稔英語研究会共同研究による研究論文をもとにして執筆しております)

総務部報告

(総務部長 飯島 光正)

本年度も全都の地区幹事および地区部長名簿を5月中に作成し、6月中旬に各地区に配布しました。また、関プロや全英連の大会の案内については、各区市町村教育委員会にお願いし、各校に配布していただきました。年間事業は右記の通りです。

①の定期総会は毎年5月の第二金曜日に固定し、実施しています。講演会も実施しており、参加者が毎年増加してきました。来年度は5月9日(金)に実施する予定です。多くの参加者を集いたいと思います。

②の大会は宣伝不足もあり、参加者は少なかったのですが、毎年文部科学省の調査官をお招きしている会でもあるので、次年度は多くの参加者を集いたいと思います。

③の都中英研、部長・地区幹事会においても、英語教育の中での今日的課題をテーマに講師の先生を招聘しています。今年度は「CAN-DOリストの作成について」九段中等教育学校の田口 徹先生より、実践しているリストを紹介していただきました。

④の関プロ群馬大会は、11月15日(金)に前橋市で行われました。午後の県外発表では足立区立第六中学校の紺野正典先生より先生の研究実践に基づく発表をしていただきました。紺野先生は関プロ2回目の発表です。さらに指導助言者として足立区教育委員会学力定着推進担当課統括指導主事の西貝裕武先生にお願いしました。

お二人ともありがとうございました。

12月には英語学芸大会を例年通り、豊島区立千登世橋中学校体育館で行い、総務部でもタイムキーパー等のお手伝いをしました。SpeechやPlayにおける代表生徒の熱意や意欲に感心させられる一日でした。同時に、ご指導された顧問の先生がたに心より感謝申し上げます。

【年間事業】

- ① 5月 定期総会
- ② 7月 全英連中学校部研究協議会
- ③ 8月 都中英研地区幹事・部長会
- ④ 11月 関プロ東京都事務局
(関プロ群馬大会事務)

事業部報告

(事業部長 横山 達也)

1. 第29回授業力アップ研修会

日 時：平成25年10月24日(木)
会 場：府中市立府中第五中学校
授業者：渡邊 一史 教諭
講 師：久保野 雅史 先生
(神奈川大学准教授)

今年度の授業力アップ研修会は、府中市立第五中学校を会場として行われた。参加者は46名であった。忙しい中、会場校を引き受けてくださった府中市立府中第五中学校の教職員の方々に、お礼を申し上げたい。

今回のテーマは、「生きたコミュニケーションにつながるSpeaking指導の工夫」であった。渡邊教諭は、“Show Time”という名称で、教科書の内容をアレンジしたスキットを発表する活動を行った。そのために、音読練習において、発表につながるように段階的な練習をさせていた。また、‘Shadow Gun’というパイプで作った道具を利用して、生徒が意欲的に練習に取り組むような工夫をしていた。

言語材料は「不定詞の副詞的用法」であったが、渡邊教諭は、ウォームアップのQ&Aや英語の歌、あるいはゲームなどですでに数回触れていて、特に文法的な説明は行わなかった。これは学習した表現を繰り返し使用して定着させる上で、非常に有効であり、「生きたコミュニケーションにつ

ながる」指導法であると感じた。

講師の久保野先生は、渡邊先生の授業の組み立てについて話してくださった。それぞれの活動を行うのはどのような目的があるのか、その活動を行う上で注意すべきところはどのような点か、などについて具体的に解説していただいた。また、参加者が同じようにやろうと思ってもできないことについても指摘してくださった。授業の手順を考えるのに非常に参考になる、示唆に富んだ指導をいただいた。

今年度の研修会も、参加者がすぐにでも授業に取り入れることのできる内容であったと思う。他の先生の授業を見ることは、自分の授業を振り返ることにつながる。来年度も、多くの先生方が参加していただき、授業改善に役立てていただきたい。

2. 第66回東京都中学校英語学芸大会

日 時：平成25年12月1日(日)
会 場：豊島区立千登世橋中学校

豊島区立千登世橋中学校で英語学芸大会を開催して、3年目になる。今年も、会場校の教職員の方々には、さまざまな面でご協力をいただいた。また、出場校の先生方や中英研各部の先生方、お手伝いの先生方も協力してくださったおかげで、スムーズに進行することができた。この場をお借りして、お礼を申し上げたい。

大会記録

スピーキングの部 (参加13校)

1位 The Greatest Gift I've Ever Had
倉地 愛羅 (荒川区立第四中学校)

2位 The Life with a Puppy
～What Can We Do for People
with Difficulties?～

天野 絵里菜

(大田区立出雲中学校)

プレイの部 (参加11校)

1位 Barefoot Gen

港区立赤坂中学校

2位 Helen Keller

～ A Story of My Life ～

足立区立第十二中学校

3位 The Sunflower Music Box

都立両国高等学校附属中学校

特別賞 Peter Pan

千代田区立九段中等教育学校

審査員 Mr Edward Weinzierl (ALT)

Mr Jun Kodama

(日本英語検定協会)

重森 秀昭 先生

(文京学院大学中学高等学校)

スピーキングの部も、プレイの部も、バラエティ豊かな内容で、生徒のすばらしいパフォーマンスが印象的であった。多くの時間とエネルギーをかけて、舞台に立つ準備をしてきたことがうかがわれた。また、指導の先生方の熱意も感じる事ができた。

来年度の英語学芸大会にも、多くの学校に参加していただきたい。また、多くの方々に見に来ていただきたいと思う。

調査部報告

(調査部長 五十嵐 浩子)

1. 新コミュニケーションテスト報告

平成 25 年度中英研・新コミュニケーションテストも多くの先生方のご支援とご協力を得て実施の運びとなったことにまずもって御礼申し上げたい。また、特に今年度は、学習指導要領改訂の趣旨に沿うよう作問したに加えて、第 1 学年対象のコミュニケーションテストを実施した初年度となった。

今年度の実施状況は以下の通りである。

1 学年 1,686 人 (14 校)

2 学年 2,975 人 (23 校)

3 学年 2,462 人 (21 校)

総 計 7,123 人 (24 年度は、4,625 人)

1 学年が参加したことで受験者数は当然増えたが、2、3 学年の受験者数も増加したことは部員一同感謝している。

◇概要

各学年の領域別平均点は次のようになっている。

<2 学年>

	文法	聞くこと	書くこと	読むこと
配 点	30	20	30	20
平均点	23.0	16.3	17.6	15.2
達成率%	76.7	81.5	58.7	76.0

<3 学年>

	文法	聞くこと	書くこと	読むこと
配 点	30	20	30	20
平均点	20.3	14.6	14.3	14.3
達成率%	67.7	73.0	47.7	71.5

「書くこと」の達成率が低い傾向は、今年度も変わっていない。

書くことは、2 通り以上の答えがある英作文と「好きな有名人紹介 (2 学年)」「好

きな季節とその理由 (3 学年)」に関する自由作文で構成した。自由作文は、文法上の正確さに加えて、「3 文のつながり」についても採点の対象とした。生徒にとって身近ではあるが、つながりを意識するという点において難しいものとなったと思われる。採点者にとっては、生徒が好きな有名人と自分の知識との間に大きなジェネレーションギャップがあることも明らかになり、英語教師として流行に敏感である必要性も感じる結果となった。

1 学年のテストは、聞くことと意識調査で構成した。計 30 問に対して平均は、24.0 点であった。入門期の指導に生かしていただくためにもより迅速な処理と結果の返送が急務である。処理のアウトソーシングを検討する必要がある。

2. ワークショップ

調査部として初めて、夏期ワークショップを開催した。すでに実績のある事業部、研究部、PT 部には開催日を調整していただき感謝している。

このワークショップは、根岸雅史教授(東京外国語大学)の講義とともに、これまで調査部が研究してきたテストづくりを伝達することを目的としたものであった。また、参加者の作成したテストを検討する時間もとりながら密度の濃い内容であった。テストニングに関する潜在的なニーズも十分感じられた。

26 年度には、「書くこと」に特化したテストづくりをテーマに開催する予定である。

3. 各校へのお願い

様々な学力調査等が実施されている中でこのコミュニケーションテストを実施していただくには、内容について一層の質的向上が求められていることを痛感している。例年のことであるが、平成 26 年度テストへの参加及び年度当初の予算計上をぜひお願いしたい。

研究部報告

(研究部長 港区立赤坂中学校教諭
北原 延晃)

「語いと英語教育 (37) 辞書指導 (4) ～ 効果の検証 (2)」

今年度、研究部では昨年度に続き副題を「効果の検証 (2)」とした。これは大きくわけて2つの柱から構成されている。

1つは語いテストによる効果の検証である。研究部員所属校を含む全国36校3700人の中学3年生に対して同じ語いテストを5月と10月に行い、データ分析を行ったものである。

学校で辞書をよく使う学校とそうでない学校、家でよく辞書を使う生徒とそうでない生徒ではどの程度語い習得に差が出るのかを調べた。

もう1つは教科書ごとに年間で辞書指導をした語と指導内容や生徒の反応を掲載した。現在の教科書は平成27年度まで使われる。ぜひみなさんの学校でも研究部の研究成果を参考にしていきたい。

研究授業は千代田区立九段中等学校の本多敏幸先生が1年生を使って授業を公開してくださいました。その後、「若い先生方に望むこと」と題してこれまで東京都の英語教育をリードしてきた50歳代の教師5人によるパネルディスカッションを行った。

プロジェクトチーム部 報告

(プロジェクト・チーム部長
斉藤 節子)

プロジェクトチーム部では、小学校の英語活動との連続性を意識し、中学校英語のねらいを達成できる授業づくりこそが中学英語の役割と捉え、昨年度に引き続き『小学校英語活動からの円滑な接続となる中学校の役目』をテーマとして2回の研修会を開催した。

1回目の研修では、駒沢女子大学教授太田洋先生より「中学英語のよりよい授業づくりの工夫」をテーマとして2時間半もの講義をしていただいた。夏季休業中ではあったが、80名を越える参加者があり、英語教員の授業改善に対する熱意を感じた。

第1回 プロジェクトチーム部研修会

日 時：平成25年8月9日(金)
会 場：清瀬市生涯学習センター
講 師：駒沢女子大学教授
太田洋 先生

第2回 プロジェクトチーム部研修会

日 時：平成26年1月30日(木)
会 場：杉並区立中瀬中学校
授業者：三木初音 教諭
講 師：千代田区立九段中等教育学校
本多敏幸 先生

※最後に、プロジェクトチーム部は、今年度も2回の研修会を開催することができた。ご多用の中、ご指導下さった講師の先生とプロジェクトチーム部員に心より感謝申し上げます。

出版部報告

(出版部長 池田 武男)

出版部では、「都中英研だより」を、例年通り、夏と秋の2期発行し年度末に本誌「都中英研会報」を発行した。これらの機関誌は、都中英研の活動内容を都内各中学校の英語科教員に広く知っていただくとともに、情報交換の場として、英語科教員相互の連携を深め、都の中学校英語教育の一層の充実、発展のために役立たせることを目的としている。そして、これらの機関誌を都内の全中学校及び教育諸機関等へ配布している。また、別途「都中英研ホームページ」にも連携し、都外へも広く都中英研の活動を紹介するよう努めている。

今年度も年度末に発行する「都中英研会報」において、全ての地区からの活動報告を掲載することができた点は、目標を達成でき安堵している。この点については、各地区の部長・幹事諸氏の理解と協力がなくてはならないものと深く感謝したい。

具体的な活動状況は以下の通りである。

・「都中英研だより」第65号

(7月17日発行)

都中英研会長挨拶、中英研総会報告、役員紹介、中英研年間事業計画、主な研究会・協議会の案内、中英研コミュニケーションテスト紹介、フェイスブック紹介等を掲載した。

・「都中英研だより」第66号

(12月20日発行)

地区部長・幹事会報告、各地区英語研究会の紹介（練馬区の取り組み）、今年度上半期に行った中英研各部の研修会報告、全英連東京大会の報告、等を掲載した。

・「平成24年度 中英研会報」第72号

(3月上旬発行)

都中英研の年間活動報告や英語教育活動全般のまとめとして、都中英研会長所感、文科省・都教委英語教育関係所感、英語学芸会報告、都研修センター報告、各地区活動状況、中英研事業報告、各部活動報告、等を掲載し発行した。

部会は年5回開いた。「都中英研だより」と「都中英研会報」の編集企画会議や発送作業を行った。また、部員同士ではあるが、授業実践における疑問や悩みを率直に相談し合い、課題を整理して日頃の授業実践に役立つ指導方法等についての意見交換も積極的に行った。このような自己研鑽にも努め有意義な部会運営ができた。

第53回 大都市公立中学校 英語教育研究会連絡協議会

千葉市大会報告
「英語教師の指導力を高めるための
取り組み」
～若手教員の指導力向上の手立て～
開催日：平成25年10月18日(金)
会場：ホテルポートプラザちば

副会長 福井 正仁

本研究会は昭和36年に「六大都市公立中学校英語教育研究会」として発足し、その後、政令指定都市の増加に伴い、現在は東京都及び政令指定都市の21自治体により構成されている。

第53回千葉市大会には、14自治体の約50名が参加し、英語教師、とりわけ若手の指導力を高める取り組みを中心に、実践の交流と協議を行った。その後、東アジアの英語教育にかかわる講演があった。

1. 実践の交流と協議

実践の交流では、事前に実施したアンケート調査の結果も踏まえて、各自治体の実践を報告した。まず、教師の指導力を高めるための取り組みとして、長期休業日中のワークショップ開催、若手教師の研究・実践組織の構築、ベテランが指導する体制の構築等が報告された。次に、新学習指導要領全面実施から1年を経過した状況については、4技能の総合的な活用に力点を置いた指導の工夫、小学校や高校との連携等の実践が挙げられた。3番目、CAN-DOリストの作成については、各校が取り組みを進める際、自治体の研究会等の強力な支援と調整が不可欠であるとの意見が多数あつ

た。最後の、小学校外国語活動との連携については、多くの自治体で小学校の研究会が組織され、中学校研究会との連携や共同研究が進められている一方で、効果的な連携のための条件整備に苦慮している現状の報告もなされた。

2. 講演

「東アジアにおける英語教育の現状と課題」と題し、千葉大学教育学部准教授の本田勝久氏が講演された。以下に講演の概要を示す。

学習指導要領改訂では、小学校段階から高等学校段階までの英語教育の目標や内容を整理し、英語力向上の道筋を明確にし、小・中・高等学校の連携を密接にすることが強調されている。また、グローバル化に対応した人材育成が求められ、英語教育においてはコミュニケーション能力を中心とした学力観の構築が求められる。

中国、韓国、台湾では、小学校で教科としての英語が必修となっている。教員養成についても、修士の学位を必須としたり、インターン制度を導入したりといった工夫がある。英語教育の改善のため、東アジア諸国の連携も進めたい。

ところで、本連絡協議会は、平成26年度のさいたま市大会に次いで、27年度は東京都大会となる。中英研各部の協働により、これからの英語教育を先取りする内容の大会を目指したい。

第 63 回全国英語研究団体
連合会総会

第 63 回全国英語教育研究大会
(東京大会)

全英連事務局次長
惣田 修一
(足立区立湊江中学校長)

○はじめに

全英連教育研究大会は、全国7ブロックの地域で毎年秋に開催されている。今年度は約3年の準備期間を設け、東京大会を迎えた。平成25年11月15日(金)に全国理事会、翌16日(土)、17日(日)の2日間総会及び研究大会が開催された。

1. 大会の主題等

大会コンセプトは、「世界で活躍できる日本人を育成する英語教育」を掲げ、小学校から大学までのコミュニケーション能力の育成を視野に入れた英語教育のあり方を示すことを目的とした。

2. 総会・記念講演

日 時：11月16日(土)

会 場：大田区民ホールアブリコ

内 容：挨拶・祝辞・会務報告・高校英作文コンテスト表彰等の総会が滞りなく終了した後、記念講演が行われた。

講 師：Olha Madylus 氏

(Freelance Teacher Trainer)

演 題：Communication and
Motivation

講演は全て英語で行われた。子どもの意欲や関心を引き出しモチベーションを高めしていく工夫をしていく授業展開の重要性を

強調するとともに具体的な提示が示された。

3. 授業実演

小学校授業実演

発表者：小林美智

(大田区立志茂田小学校教諭)

中学校授業実演

発表者：柴野泰行

(足立区立湊江中学校教諭)

高等学校授業実演

発表者：布村奈緒子

(東京都立両国高等学校教諭)

全英連の授業発表では、初の小中高すべての校種による授業実演であった。

小学校の授業実演では、「夢の卒業旅行」を題材として意欲的な言語活動のあり方を実演した。中学校では、「インタラクティブを活性化させる授業」のあり方を示し、英語での発信力を高めさせる言語活動の工夫が随所に見られる授業展開だった。そして高校では、ディスカッションを中心としたグループワークが展開され、生徒の言語能力、表現力を高める工夫がされていた。

4. 分科会

日 時：11月17日(日)

会 場：東京工科大学(蒲田)

・小学校：4分科会

・中学校：6分科会

・高等学校：6分科会

・共通：2分科会 WS：3コース

・小学校特別講演 直山木綿子

(文科省初等中等教育局教科調査官)

5. 東京大会を振り返って

初の小学校授業実演が行われ小学校教員を含め全国から1200名を越える参加者があり、大会は非常に盛り上がった。今後の英語教育の推進に寄与した。

第37回関東甲信地区中学校 英語教育研究大会 (群馬大会)

総務部長 飯島 光正

テーマ

「基礎・基本を身に付け、伝えたい事項を
英語で豊かに『発信』する生徒の育成」
～週4時間体制を生かした効果的な指導と評価
の工夫～

1. 期 日

平成25年11月15日

2. 会 場

前橋市民文化会館

3. 大会日程

9:00 受付

9:30 開会行事・全体会

10:10 文部科学省指導講話

11:10 群馬県提案(分科会)

13:30 公開授業

14:30 授業研究会

15:10 各都県提案

16:35 閉会行事

4. 参加者総数

約500名

5. 分科会

(1) 第1分科会

「学ぶ意欲向上と、基本的な学習習
慣の確立を図る効果的な指導と評
価の工夫」

県外提案 埼玉県、東京都

(2) 第2分科会

「語彙・語法の習慣と定着を促す効

果的な指導と評価の工夫」

県外提案 栃木県、茨城県

(3) 第3分科会

「各技能の着実な伸長と、4技能の
総合的な育成を図る効果的な言語
活動の工夫と評価」

県外提案 栃木県、山梨県

(4) 第4分科会

「話す活動」と「聞く活動」の関連
を持たせて

県外提案 千葉県、神奈川県

6. 公開授業

(1) 第1会場 伊勢崎市立三郷小学校

授業者 田野辺陽子教諭

伊勢崎三中学校

指導助言 大竹康史指導主事

(2) 第2会場 高崎市立群馬中央中学校

授業者 松本徹教諭

群馬中央中学校

指導助言 高橋裕樹指導主事

(3) 第3会場 前橋市立鎌倉中学校

授業者 藤井俊樹教諭

鎌倉中学校

指導助言 石井俊明指導主事

(4) 第4会場 前橋市立春日中学校

授業者 吉田章仁教諭

春日中学校

指導助言 萩野雅史指導主事

各地区の活動状況

千代田区	32左
中央区	32右
港区	33左
新宿区	33右
文京区	34左
台東区	34右
墨田区	35左
江東区	35右
品川区	36左
目黒区	36右
大田区	37左
世田谷区	37右
渋谷区	38左
中野区	38右
杉並区	39左
豊島区	39右
北区	40左
荒川区	40右
板橋区	41左
練馬区	41右
足立区	42左
葛飾区	42右
江戸川区	43左
八王子市	43右
立川市	44左
武蔵野市	44右
三鷹市	45左

青梅市	45右
府中市	46左
昭島市	46右
調布市	47左
町田市	47右
小金井市	48左
小平市	48右
日野市	49左
東村山市	49右
国分寺市	50左
国立市	50右
福生市	51左
狛江市	51右
東大和市	52左
清瀬市	52右
東久留米市	53左
武蔵村山市	53右
多摩市	54左
稲城市	54右
あきる野市	55左
西東京市	55右
羽村市・西多摩	56頁
大島町	57左
八丈町	57右

千代田区

I. 研究主題

「ICTを活用した授業研究」

～生徒に応じた指導法の工夫～

II. 研究の経過

- ◇4月 千代田区研究部会
- ◇5月 英語部会
研究のテーマ、研究計画作成
- ◇6月 自主研修
- ◇8月 自主研修
- ◇9月 自主研修
- ◇10月 自主研修
- ◇11月 英語部会都専門向上研修、中英研
報告、情報交換
- ◇12月 自主研修
- ◇1月 講演、講義
講演：神奈川大学准教授
久保野雅史 先生
- ◇2月 ペスタロッチ祭
(麹町中学校教諭 鶴指勝雄 記)

中央区

I. 研究主題

「4技能を総合的に育成する指導の工夫」

II. 研究の経過

- ◇4月17日
組織作り、研究主題決定
年間活動計画作成
- ◇6月26日
都立両国高等学校附属中学校
2学年授業見学
- ◇9月11日
2学年研究授業
授業内容：New Crown 2 My Dream
授業者：大林泰代 教諭
(日本橋中学校)
講師：杉本薫 先生
(都立両国高等学校附属中学校)
- ◇9月25日
スピーキングテスト内容検討、
日程調整、役割分担
- ◇10月15日～11月30日
スピーキングテスト実施
- ◇1月23日
1学年研究授業
授業内容：New Crown 1
We're Talking 7
授業者：須田のり子 教諭
(佃中学校)
講師：杉本薫 先生
(都立両国高等学校附属中学校)
- ◇2月26日
今年度の反省
(晴海中学校主幹教諭 和泉広恵 記)

港

区

I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力を高める
指導の工夫」

～小中連携を踏まえて～

小学校国際科研究部と連携・協
力して研究授業や協議会を合同
で実施した。

II. 研究の経過

- ◇ 5月15日（青山中）組織づくり
研究主題確認 年間事業計画決定
- ◇ 5月16日 年間活動計画決定
- ◇ 6月12日（高陵中）
授業実践例についての情報交換
研究主題についての協議
- ◇ 9月18日（港南中）研究授業
【小中合同部会開催】
授業者：石川桂 主任教諭（港南中）
講師：高橋一幸 教授
（神奈川県外国語学部）
講演：「小学校外国語活動と中学校英
語教育の接続
－児童生徒の発達段階をふま
えた小中連携の要点と課題－」
- ◇ 11月13日 英語発表会
（赤坂区民センター）
【小中合同部会開催】
- ◇ 1月15日（青山中）
英語発表会のまとめと課題について
- ◇ 2月12日（青山中）
研究発表会
授業実践報告 今年度のまとめ
授業者：川谷ゆかり 先生（神明中）
（高陵中学校副校長 田中徹哉 記）

新

宿

区

I. 研究主題

「4技能を総合的にはぐくむ指導の工夫・
指導と評価の一体化」

①教材・教具を効果的に活用する指導の
工夫

②小中連携を踏まえた入門期指導の工夫

II. 研究の経過

- ◇ 5月8日 新中教研一斉部会
組織作り・研究テーマ・年間活動計画決定
- ◇ 6月17日 研究授業
（於：落合第二中学校）
授業者：宮本司 教諭
講師：玉川大学教授
日臺滋之 先生
「教科書の題材・言語材料を活用した指
導と評価への小さな提言」
- ◇ 7月30日 一斉部会
講師：国際理解室長 竹田秋人 先生
「小中連携・Can-Do リスト」(午前)
新宿区立牛込第二中学校副校長
関実 先生「授業の焦点化」(午前)
講師：実践女子大学非常勤講師
山本新治 先生(午後)
「小中連携について」
- ◇ 8月21日
第29回新宿区中学校英語学芸発表会
（於：四谷区民ホール）
- ◇ 10月9日 一斉部会（於：四谷中学校）
講師：上智大学教授 吉田研作 先生
「Can-Doリストによる学習目標設定」
- ◇ 10月29日 研究授業
（於：牛込第三中学校）
授業者：長谷川貴明 教諭
- ◇ 1月30日
授業者：桐生祥佳 教諭
（於：牛込第一中学校）
講師：文教大学国際学部教授
阿野幸一 先生
「4技能を統合させた授業作り」
（落合中学校主任教諭 豊田恵子 記）

文 京 区

I. 研究主題

「実践的コミュニケーション能力を育成するための指導の工夫」

II. 研究の経過

◇5月8日

英語部組織作り、研究主題決め

◇11月16日・17日

全国英語教育研究団体連合会参加
宮長真紀 教諭（第三中学校）

◇12月1日

豊島区立千登世橋中で行われた都の英語学芸会に第三中学校がPLAYの部門で参加した。

◇12月2日

研究授業・研究協議会

授業者：益子大輔 教諭（本郷台中）

講師：和田雅光 先生（教育センター）

単 元：1年 Chapter 2 Project

〇〇さんを紹介しよう

内 容：班ごとに生徒一人一人が自分の家族等を紹介するスピーチの練習に取り組む授業であった。電子黒板を効果的に活用し、聞き手にも分かりやすい内容であった。

◇1月23日

区中研英語部会：ワークショップ

内 容：『TOTAL ENGLISH』用いたワークシート等の紹介を学年別グループで行った。各部員のワークシートは大変興味深く、来年度以降の教材研究のためにも大いに役だった。

（茗台中学校主幹教諭 阿久津 仁史 記）

台 東 区

I. 研究主題

「新学習指導要領全面実施における課題と実践」

II. 研究の経過

◇4月10日 区中研総会・一斉部会

・役員選出、組織づくり

・研究主題、年間活動計画の検討

◇6月19日 授業研究

・各校での実践報告

・教材の共有化

◇9月11日 英語学芸会検討会

・実施内容の検討

◇10月9日 研究授業・研究協議会

授業者：石田麻紀 主任教諭

砂谷智枝 教諭（上野中）

講 師：言語文化研究所

常務理事 後関正明 先生

内 容：『NEW CROWN』READの授業を効果的に展開する方法について活発な意見交換ができた。また、ICT機器と黒板を併用することで、より一層多様な授業展開が考えられ、4技能をバランスよく育成するための新たな可能性が見えてきた。

◇11月9日 連合英語学芸会

会 場：生涯学習センター

ミレニアムホール

参加校：7校

内 容：RECITATION10名、
SPEECH19名

SPEECH優勝者（柏葉中3年）が都学芸大会に出場した。

（柏葉中学校主任教諭 石川彰子 記）

墨 田 区

I. 研究主題

「表現力を高めるスピーキング活動の工夫」

II. 研究の経過

◇4月17日 区中研総会・一斉部会

①役員選出、組織づくり

②研究主題、年間活動計画の検討

◇6月26日 区中研前期研究授業

・授業者：堀越亜紀 教諭

(両国中学校)

・単元名：1年

「はじめまして、ブラウン先生」

・講師：後関正明 先生

(ILEC言語教育文化研究所常務理事)

◇7月24日 区中研英語部夏季研修会

①会場：寺島中学校

②内容：「スピーキング活動」に係る講義及びワークショップ等

③講師：MICHAEL JENNINGS先生
(インタラック講師管理責任者)

◇9月11日 墨田区「開発的学力向上プログラム」調査分析報告

・報告者：河野敏也 主任教諭

(寺島中学校)

蕨知英 教諭

(本所中学校)

高田奈々 教諭

(錦糸中学校)

◇11月27日 区中研後期研究授業

①授業者：山崎文抄子 教諭

(文花中学校)

②単元名：1年「There is/are ～」

③講師：上尾栄美子 先生

(江戸川区立篠崎第二中学校教諭)

◇2月19日 区中研 研究発表会

(寺島中学校長 田谷至克 記)

江 東 区

I. 研究主題

(1)基礎学力の充実を目指した指導と評価の工夫

(2)新学習指導要領への移行を考えた指導と評価

II. 研究の経過

◇5月7日 区中研一斉部会

・会場：大島西中学校

・内容：活動計画、組織作り

◇6月18日 区中研研究授業

・授業者：山本利枝主任教諭

(深川第四中学校)

・ALT：David Sale

・単元：1年 Lesson 3 自己紹介

・講師：林宣之 先生

(有明中学校副校長)

◇7月23日～26日

外国人講師によるワークショップ

・場所：British Council

◇11月6日 江東区英語学会

・会場：江東区カメラアホール

・内容：speech、play、others

・play部門“Alice in Wonderland”

都大会出場 深川第三中学校

◇2月7日 区中研一斉部会

・会場：大島中学校

・内容：江東英語学びスタンダードについて

◇2月14日 英語部研修会

・会場：深川第八中学校

・内容：New Crownの効果的な使い方

・講師：工藤洋路 先生

(駒沢女子大学)

(有明中学校主任教諭 原田博子 記)

品川区

I. 研究主題

「小中一貫教育における具体的な指導の在り方」

～9年間の系統性を明確にして～

II. 研究の経過

- ◇4月17日：研究テーマ、組織決定
- ◇5月8日：研究授業（荏原六中）
授業者：前田秋穂 教諭
岡崎伸一 教諭
橋浦光夫 教諭
講師：千葉大学 本田勝久 准教授
- ◇6月12日：研究授業（東海中）
授業者：櫻井ルナ 教諭
講師：千葉大学 本田勝久 准教授
- ◇7月3日：研究授業（小山台小）
授業者：竹内順子 教諭
講師：駒沢女子大学 太田洋 教授
- ◇9月4日：ワークショップ（小山台小）
コーディネーター：大滝さつき 教諭
- ◇10月2日：研究授業（鈴ヶ森小）
授業者：小池美緒 教諭
講師：千葉大学 本田勝久 准教授
- ◇11月12日：英語学習成果発表会
講師：Mr James Cotrell
- ◇12月4日：研究授業（日野学園）
授業者：奥田牧子 教諭
講師：千葉大学 本田勝久 准教授
研究授業（伊藤学園）
授業者：渡邊志帆 教諭
講師：駒沢女子大学 太田洋 教授
- ◇1月15日：分科会のまとめ
- ◇2月12日：研究発表会（戸越台中）
講師：千葉大学 本田勝久 准教授
（戸越台中学校副校長 柳歆子 記）

目黒区

I. 研究主題

「確かな学力を身に付けさせる指導の工夫」

II. 研究の経過

- 4月17日 研究目標、研究計画、
研究組織づくり
- 5月8日 授業実践情報交換
- 7月10日 入門期の実態調査
テスト問題検討
- 10月9日 研究授業
三中 館野久美子 先生
指導講師：中村貴美子 先生
- 11月13日 スピーチコンテスト
目黒三中3年生優勝
- 11月12日 関ブロ群馬大会
参加者1名
- 1月23日 都教育研究員研究授業
東山中学校 橋本好美 先生
- 2月5日 1年間のまとめ
小学校・中学校発表
関ブロ報告
指導講師：工藤洋路 先生

（まとめ）

小学校英語活動との連携を意識して、中学校入門期の実態調査を試行した。授業改善について、4技能の統合を意識した多様な工夫を共有した。

（第四中学校長 牛島順子 記）

大 田 区

I. 研究主題

「分かったことを表現する力を高める
指導」

II. 研究の経過

- ◇4月17日 一斉部会（田園調布中）
組織編成及び名簿作成
- ◇7月1日 研究授業（志茂田中）
授業者：志茂田中 鷺見侑里奈 教諭
講 師：文教大学 阿野幸一 教授
- ◇10月9日 小中一貫（道塚小）
授業者：道塚小 前田恵里 教諭
講 師：文科省 直山木綿子 調査官
- ◇11月5日 研究授業（矢口中）
授業者：矢口中 渡井さや香 教諭
講 師：玉川大学 佐藤久美子 教授
- ◇11月8日 連合学芸会
会 場：大田区民センター
スピーチ 23 人及び劇等 4 校が発表
代表の出雲中が都学芸会で第二位
- ◇2月5日 一斉部会（田園調布中）
講演会：「英語で英語を教えるための
必須条件：クリアな発音」
講 師：大東文化大学 静 哲人 教授
(田園調布中学校長 原田承彦 記)

世 田 谷 区

I. 研究主題

「世田谷9年教育の充実をめざして」
～Hi, friends!を意識した中学校1年
の指導の工夫～

II. 研究の経過

- ◇5月8日 世中研総会（烏山中）
- ◇6月5日 前期研究会：授業研究会
授業者：竹島愛香 教諭（三軒茶屋小）
講 師：小泉清裕 先生
(昭和女子大学附属小学校長)
- ◇8月2日 夏季研修会（梅丘中）
 - ①ALTの効果的な活用法のワークショップ
 - ②デジタル教科書の効果的な活用法講 師：大塚謙二 先生
(北海道壮瞥町立壮瞥中)
- ◇9月19日 後期研究会：授業研究会
授業者：成瀬未緒 教諭（千歳中）
講 師：北原延晃 教諭（港区立赤坂中）
- ◇11月6日 第24回スピーチコンテスト
(成城ホール)
- ◇11月28日 国公私立交流会
授業者：稲葉高広 教諭（東深沢中）
中原正貴 教諭（東深沢中）
堀田奈梨子 教諭（東深沢中）
講 師：久保野雅史 先生
(神奈川大学大学院准教授)
- ◇2月4日 授業研究会
授業者：渡邊 貢 主任教諭
永島由布子 主任教諭
大石正明 教諭
講 師：中村貴美子 先生
(青山学院大学講師)
(東深沢中学校主幹教諭 築瀬 学 記)

渋谷区

I. 研究主題

「小学校外国語活動から中学校英語授業への連結」

II. 研究の経過

◇5月8日 渋谷区中教研英語部会

・組織編成、研究主題、
研究授業校及び授業者の決定

◇11月13日 一斉研究日、英語部会

授業者：石橋晋介 教諭

(渋谷本町学園)

内 容：①協議会（1年生の授業）

②授業づくり事例発表

「コミュニケーションに対する
積極的な態度を養う授業づく
りの考え方」

前川卓哉 教諭（松濤中学校）

◇11月30日 高円宮杯全日本中学校

英語弁論大会

会 場：よみうりホール

参加校：松濤中学校

結 果：3年女子全国大会に出場

◇12月1日 東京都英語学芸大会

会 場：豊島区立千登世中学校

参加校：原宿外苑中学校

結 果：2年女子弁論の部に出場

◇2月12日 渋谷区中教研英語部会

内 容：研究発表（紙上）

CAN-DOリストについて指導
法の改善

講 師：松坂ヒロシ 先生

(早稲田大学教育学部教授)

講 演：「授業の中での音声指導」

(松濤中学校長 鈴木富樹 記)

中野区

I. 研究主題

「すべての生徒が生き生き参加できる授業
の工夫～学習指導要領に基づいた授業デ
ザイン・教科書の創造的な扱い方～」

II. 研究の経過

◇4月17日 中教研英語部会

今年度の方針決定及び組織作り

◇6月12日 中教研英語部会

テーマ：教科書の創造的な扱い方

講 師：瀧沢広人 先生

(埼玉県秩父郡小鹿野小学校)

◇7月24日 中教研夏季研修会

テーマ：TESOL講師に学ぶ生きた英語
教授法

講 師：Ms. Janet Walter-Kerr (ACG
Strathallan College (New-
Zealand) ESOL Curriculum
Coordinator)

◇10月16日 中教研研究日

中野区英語学会打ち合わせ

(研究授業・研究協議は、台風のため中止)

◇11月2日 英語学芸会

会 場：野方WIZホール

参加校：6校13組

結 果：区立中野中学校が区の代表

として都大会に出場

(PLAY部門)

◇2月12日 中教研研究発表会（予定）

研究紀要にて研究発表

◇2月12日 中教研英語部会（予定）

講 師：瀧沢広人 先生

(埼玉県秩父郡小鹿野小学校)

(第十中学校主任教諭 井上智絵 記)

杉 並 区

I. 研究主題

「コミュニケーション能力の基礎を養うための指導と評価」

II. 研究の経過

- ◇4月17日 杉並教育研究会一斉部会
研究主題・組織・年間計画
- ◇6月5日 一斉部会研究授業
授業者：福田和子 先生（泉南中）
指導講評：山本新治 先生（三菱商事）
- ◇8月21日 夏季ワークショップ
午 前：English Refresher：World Festivals
午 後：Communicative language teaching-grammar and functions
講 師：Mr. Ben Crawford(British Council)
- ◇8月22日夏季ワークショップ
午 前：「生徒の意欲を高める 授業づくり」
講 師：西 正弘 先生
（練馬区立総合教育センター）
午 後：「効率的な教材研究の仕方」
講 師：池田武男 先生（井草中）
- ◇10月2日 子小中合同研修会
講 演：「杉並区の小・中学生に望む 英語力について」
講 師：折井麻美子 先生
（早稲田大学）
- ◇11月2日 英語学芸発表会
- ◇認定講師公開師範授業
授業者：倉田千恵美 先生（宮前中）
7月9日および11月2日
授業者：春日陽子先生（西宮中）
2月13日
- ◇2月19日 研究会
講 演：「小中接続を考慮した上での 今後の英語教育の在り方」
講 師：アレン玉井光江 先生
（青山学院大学）
- ◇杉並区リスニングコンテスト実施
（井草中学校長 池田武男 記）

豊 島 区

I. 研究主題

「学習指導要領の趣旨を踏まえた小中連携のあり方」

II. 研究の経過

- ◇4月17日 区中研一斉部会
組織作り、研究主題、年間活動計画全英連、関ブロ、英語学芸会の確認
- ◇11月13日 区中研小中合同一斉部会
・研究授業（小学校6年英語活動）
研究主題：豊かなコミュニケーションをはぐくむ英語活動～外国の人や友だちと積極的に楽しむ活動を通して～
授業者：木村真紀 先生
（文成小学校教諭）
単 元：食べ物Food
研究協議……小中合同による協議
指導・助言…渡邊寛治 先生
（文京学院大学院客員教授）
- ◇11月15日 関ブロ・群馬大会参加
- ◇1月15日 区中研一斉部会
・研究授業（中学1年）
授業者：長谷川 士 教諭
（明豊中学校）
単 元：初めての点字（現在進行形）
・講師講演：
テーマ「英語教育にいかすユーモアの 効果」
・英語落語実演
・講 師：大島希巳江 先生
（文京学院大学教授）
（著書に「英語落語」他）
（千登世橋中学校教諭 田中すみ子 記）

I. 研究主題

「小学校外国語活動と連携し実践的コミュニケーション能力の向上を目指した授業の工夫（デジタル教科書・電子黒板等の活用）」

II. 研究の経過

- ◇ 4月24日 北区教育研究会中学校英語部会
組織作り、研究目標、活動計画、
小中一貫カリキュラム、情報交換
- ◇ 5月22日 北区教育研究会英語・外国語活動研究部小中合同部会
- ◇ 北区英語学会 北区立滝野川会館参加校12校最優秀生徒（桐ヶ丘中3年）東京都英語学芸大会に参加
- ◇ 11月27日 中学校英語授業
授業者：竹林立子 教諭
対象学年：3年
単元：「We Can Change Our World」
講師：外国語教育アドバイザー
坂下孝徳
- ◇ 12月1日 東京都英語学芸大会英語スピーチコンテスト参加
桐ヶ丘中学校
- ◇ 1月15日 「ICT活用研修会」（桐ヶ丘中学校）iPadと電子黒板を連携した活用の実践
- ◇ 2月13日 小中合同研究授業（教科）
授業者：烏谷 亮 教諭
（単元は未定）
（桐ヶ丘中学校長 永嶋昌博 記）

I. 研究主題

「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」

～世界につながる荒川の英語教育～

本区では4年前に全普通教室に電子黒板が設置され、インターネットやデジタル教科書を日常的に使用している。また、25年度と26年度にかけて生徒全員がタブレットPCを使用できる環境が整備される。

II. 研究の経過

- ◇ 4月17日 部づくり
研究主題の設定、役員選出、年間活動計画の作成
- ◇ 7月17日 研究授業
授業者：三中 杉浦裕美
野口美穂子
高江洲司
講師：玉川大学 日臺滋之 教授
- ◇ 9月18日 研究授業
授業者：一中 藤井和佳子
宮川桂子
講師：玉川大学 日臺滋之 教授
- ◇ 11月8日 スピーチコンテスト
会場：サンパール荒川小ホール
- ◇ 11月20日 講演会
会場：諏訪台中学校
講師：専修大学 田邊祐司 教授
～これからの英語教育のあり方～
- ◇ 1月15日 小中合同部会
授業者：尾久宮前小 志村悠子
- ◇ 2月19日 発表会（誌上発表）
（諏訪台中学校主幹教諭 山崎聡 記）

板 橋 区

I. 研究主題

「意欲的に言語活動を進める
生徒の育成」

II. 研究の経過

- ◇ 4月17日 区中研一斉部会
役員選出、研究主題・年間活動計画等の
決定
- ◇ 5月23日 第1回授業研究
「現在完了の理解と活用」
授業者：長塚幸恵（加賀中）
- ◇ 8月5日 夏季ワークショップ
1部「英語授業におけるICT機器の
活用」
講 師：赤塚第二中学校
小野寺史好 主幹教諭
2部「推論発問による効果的な
リーディング指導」
講 師：山梨大学大学院教育学研究科
田中武夫 准教授
- ◇ 11月7日 「英語のつどい」
会 場：板橋区立アクトホール
出演校：14校（スピーチ、劇等）
- ◇ 11月3日 第2回授業研究
「～に… してほしい」の表現
授業者：石村頼子（中台中）
- ◇ 1月30日 第3回授業研究
授業者：尾崎ともえ（志村三中）
- ◇ 2月6日 区中研教職員研究発表会
○英語部会研究発表
「意欲的に言語活動を進める生徒の育成」
 - ①「アルファベットカードの活用」
(高島一中)
 - ②「意欲的な言語活動の推進」
(志村一中)
 - ③ "Chanting Chunks" (西台中)
(赤塚第二中学校校長 稲葉秀哉 記)

練 馬 区

I. 研究主題

「基礎・基本の定着を図り、コミュニ
ケーション能力の基礎を培う。
また学習指導要領を踏まえた授業研
究を行い、生徒が主体的に学ぶ力を
育てる。」

II. 研究の経過

- ◇ 5月15日 区中研一斉部会
- ◇ 6月19日 授業研究会（中村中）
授業者：大森 博 主幹教諭
- ◇ 7月30日・31日 夏期研修会
*「力をつける授業づくりを考えましょう」
講 師：太田 洋 先生
(駒沢女子大学教授)
- *「コミュニケーションに対する積極的
な態度を養う授業づくり」
講 師：前川卓哉 先生
(渋谷区立松濤中学校)
- *「4技能を総合的に育成する授業のあ
り方」
講 師：溪内 明 先生
(千代田区立九段中等教育学校)
- *「学習指導要領の目標に準拠した授業
の進め方」
講 師：日臺滋之 先生
(玉川大学教授)
- ◇ 10月19日 英語学芸会
(練馬区生涯学習センター)
都大会出場校：田柄中
“Midsummer Santa”
特別賞：豊玉中・豊溪中
- ◇ 11月6日 授業研究会（北町中）
授業者：黒澤 敬 教諭
(大泉学園中学校教諭 西巻美雪 記)

足 立 区

I. 研究主題

「4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力の育成～小中連携を踏まえて」

II. 研究の経過

- ◇4月17日 一斉部会
(千寿桜堤中学校)
 - ・研究テーマ、事業計画及び組織確認
- ◇6月12日 第1回研修会
 - ・研究授業 大木田陽子教諭 (加賀中)
 - 4技能について、小中連携について
 - 講師：文部科学省 平木 裕 先生
- ◇7月17日 第2回研修会 ※小中合同
 - ・研究授業 栗原小 三枝かおる 教諭
 - 講師：文部科学省
直山木綿子 先生
- ◇7月25日 第3回研修会 夏季研修会
講師：旭市立矢指小学校副校長
加瀬政美 先生
- ◇7月26日 第4回研修会 夏季研修会
 - ・若手教員による実践発表
 - ・紺野正典先生 (第六中) による発表
- ◇9月11日 第5回研修会
 - ・研究授業 高野 玲先生 (第六中)
 - 講師：千代田区立九段中等教育学校
本多敏幸 主任教諭
 - ・連合英語打ち合わせ
- ◇10月24日 連合英語学芸発表会
※西新井ギャラクシティホールにて
 - ・スピーチの部 優勝 加賀中
 - ・劇の部 優勝 第十二中
 - ※第十二中は都大会でも第2位入賞
- ◇11月13日 第6回研修会
『小中連携を通して中学校の授業改善をすすめるために必要なこと』
講師：足立区教育委員会統括指導主事
西貝裕武 先生
- ◇1月15日 第7回研修会
 - ・研究授業 上野翠湖 主任教諭
(第十中)
 - 講師：足立区教育委員会統括指導主事
西貝裕武 先生
- ◇2月5日 一斉部会 (第十四中)
 - ・今年度の研究内容の発表など
 - 講師：文部科学省 平木 裕 先生
(加賀中学校教諭 大木田陽子 記)

葛 飾 区

I. 研究主題

「『聞く・話す・読む・書く』のコミュニケーション能力を総合的に育成する指導の工夫」

II. 研究の経過

- ◇4月16日 A L T 導入全校説明会、
割当調整会議
- ◇5月15日 葛中研全員部会
事業報告、会計報告、役員選出、
事業計画、予算案、情報交換
- ◇7月11日 第1回研究授業
授業者：河野光志 教諭 (立石中)
講師：瀧沢広人 先生
(小鹿野小学校教諭)
- ◇10月9日 実技研修会『外国語科における指導と評価の在り方・テストングについて』
講師：平木 裕 先生 (文部科学省)
- ◇10月11日
第28回葛飾区立中学校英語スピーチ&フレイコンテスト (かめありリリオホール)
暗誦 (8名) プレイ (2校) スピーチ
1 (6名) スピーチ2 (23名) 参加、
スピーチ2 優勝者 (奥戸中3年) が都大会に出場した。
- ◇2月13日 第2回研究授業
授業者：福田真希子 教諭 (水元中)
講師：石井 亨 先生
(九段中等教育学校教諭)
- ◇3月22日
役員会：年度末反省、次年度活動計画、
名簿作成、情報交換
(立石中学校教諭 河野光 記)

江戸川区

I. 研究主題

「コミュニケーション能力の基礎を養う
指導計画・評価計画の工夫」
～意図的・計画的な若手教員の育成を
通して～

II. 研究の経過

- ◇5月8日 総会・役員会
・組織づくり
・年間活動計画の検討・作成
- ◇6月5日 研究授業
授業者：宍戸ユリ 教諭（松江第六中）
内 容：現在完了 接続用法
- ◇6月11日 若手教員研修会
授業者：小酒井貴子 教諭（西葛西中）
講 師：明石達彦 先生
（西葛西中主任教諭）
- ◇8月2日 夏季研修会（西葛西中）
〈午前の部〉講義・ワークショップ
1. 授業の組み立て方
講 師：明石達彦 先生（西葛西中）
2. オーラルイントロダクション
講 師：大内由香里 先生
（瑞江第三中主任教諭）
〈午後の部〉実技演習
○マイクロティーチング
講 師：関口智 先生
（清新第一中主任教諭）
小柳守生 先生
（西葛西中主任教諭）
坂元伸子 先生
（小岩第四中主任教諭）
- ◇10月10日
示範授業・若手教員研修会
授業者：坂元伸子 主任教諭
（小岩第四中）
内 容：助動詞 must の活用
- ◇2月5日 研究授業
授業者：佐藤みち子 主幹教諭
（小岩第三中）
内 容：助動詞 can の活用
クリティカルシンキングの
取組み
（二之江中学校長 内野雅晶 記）

八王子市

I. 研究主題

「実践的な授業を通じた授業力・指導力
の向上」

II. 研究の経過

- ◇4月25日 役員会
主題設定、組織、活動計画確認
- ◇7月2日研究授業 七国中学校
授業者：東小百合 教諭
講 師：横山達也 教諭（第七中）
- ◇7月24日スキルアップ研修会
授業力・英語力のブラッシュアップ
「ネイティブ講師による英語力のブラッ
シュアップ」（演習）
講 師：Martin McCubbin氏(財)ELEC
- ◇11月6日 一斉部会 研究授業
- 1ブロック
授業者：太田裕也 教諭（第六中）
講 師：山下喜世子 先生
（八王子市立第五中学校主任教諭）
- 2ブロック
授業者：早野孝枝 教諭（第二中）
講 師：内田富男 先生
（明星大学人文学部准教授）
- 3ブロック
授業者：門倉聖恵 主任教諭
（みなみ野中）
講 師：中村貴美子 先生
（青山学院大学講師）
- 4ブロック
授業者：津田瑠衣 教諭（中山中）
講 師：福田真澄 先生
（多摩市立和田中学校副校長）
（陵南中学校副校長 竹内康裕 記）

立 川 市

I. 研究主題

「基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ力を育てる～自ら考え表現できる生徒の育成」

II. 研究の経過

◇5月8日 一斉部会

①組織作り

②研究主題と活動計画の作成

◇7月23日 研修会①

テーマ：表現力を高める指導について

講 師：石井享 先生

(千代田区立九段中等教育学校)

◇8月22日 研修会②

テーマ：表現力を高める指導について

ーオーラルメソッドの活用ー

講 師：大内由香里 先生

(江戸川区立瑞江第三中学校)

◇10月9日 研究授業

授業者：谷口弘美 先生

(立川第七中学校)

内 容：NEW CROWN Book 3

関係代名詞(目的格 that, which)の導入と練習

講 師：太田洋 先生

(駒沢女子大学)

◇2月12日 一斉部会

今年度のまとめ

次年度の研究内容・計画の決定

(立川第一中学校主幹教諭

境野亜希子 記)

武 蔵 野 市

I. 研究主題

「つながりを意識した授業作り」

II. 研究の経過

◇4月17日 教育研究会一斉部会

組織作り

◇5月8日 定例部会

研究主題と活動計画の決定

情報交換

◇10月9日 定例部会(基礎研究Ⅰ)

4技能を関連付けた指導法について①

・ALTを講師に迎えての授業作りのポイント

◇11月13日 定例部会(基礎研究Ⅱ)

4技能を関連付けた指導法について②

・定期テストにつながる授業の工夫

◇1月15日 研究授業

内 容：New Crown 1 Lesson 8

現在進行形

授業者：上水恵 教諭(四中)

講 師：千代田区立九段中等教育学校教諭

本多敏幸 先生

(第三中学校教諭 松尾由木 記)

三 鷹 市

I. 研究主題

「発達段階に応じたコミュニケーション能力の育成～9年間の指導を見通して～」

II. 研究の経過

- ◇4月17日 組織作り
- ◇5月8日 次回指導案検討と
定期考査問題検討
- ◇6月12日 研究授業
単元名：Do you have～？
授業者：朝比奈美枝子 主任教諭
(三鷹市立南浦小学校)
- ◇10月9日 研究授業
単元名：Speaking Plus 2 電話での応答
授業者：古川真珠美 教諭
(三鷹市立第三中学校)
- ◇11月6日 研究授業
単元名：Can you do this?
授業者：佐藤のぞみ 主任教諭
(三鷹市立大沢台小学校)
- ◇1月15日ワークショップ
 - ・ALTによる授業の観察および参加
 - ・今後の小中英語教育について講師：英語研究部顧問 松永透 校長
(第三中学校教諭 近藤正子 記)

青 梅 市

I. 研究主題

「より良い授業の工夫と創造」
～小・中学校の連携を深め、生徒の英語の運用能力・理解力を高めるために～

II. 研究の経過

- ◇5月8日 中教研全体会・部会
- ◇6月10日 授業研究
 - ・授業者：元家史子 (第三中)
 - ・内 容：時刻を尋ねる表現
- ◇11月6日 授業研究 (小・中合同)
 - ・授業者：松川靖弘 (河辺小)
 - ・内 容：Hi Friends! Lesson6,7
 - ・指導講評：相田真喜子 先生
(東京学芸大学附属世田谷小学校講師)
- ◇12月5日 研修会
 - ・講 師：和田朋子 先生
(工学院大学基礎・教養教育部門准教授)
 - ・内 容：NEW CROWN:USE READ
の効果的な指導法
 - ・協 力：三省堂英語教科書編集部
- ◇1月15日 授業研究 (小・中合同)
 - ・授業者：青木修平 (若草小)
 - ・指導講評：相田真喜子 先生
(東京学芸大学附属世田谷小学校講師)
- ◇1月16日 授業研究
 - ・授業者：百嶋友美 (一中)
 - ・内 容：現在進行形
 - ・指導講評：本多敏幸 先生
(千代田区立九段中等教育学校主任教諭)
(新町中学校主幹教諭 田中明子 記)

府 中 市

I. 研究主題

「Speaking力を高める指導と評価のあり方について」

II. 研究の経過

- ◇4月17日 一斉部会
研究主題設定、年間活動計画、組織づくり
- ◇5月15日 総会
府中の森芸術劇場
どりーむホール
- ◇6月12日
小中連携
各校区中学校
- ◇8月7日 サマー・ワークショップ
内 容：生徒も先生もやる気の湧く英語授業
- ◇8月 English Camp共催
- ◇9月11日 研究授業
授業者：府中第五中学校
渡邊一史 主任教諭
講 師：都留文科大学非常勤講師
安原美代 先生
- ◇1月15日 研究授業
授業者：府中第六中学校
若山健樹 主任教諭
(第四中学校教諭 宮川美智子 記)

昭 島 市

I. 研究主題

「新学習指導要領に基づく授業改善について」

II. 研究の経過

- ◇4月17日 一斉部会
会 場：福島中学校
・研究主題設定
・年間活動計画
・組織作り
- ◇5月22日 一斉部会
会 場：拝島中学校
「授業改善の工夫」
・各校の授業の様子情報交換
・各校のワークシートをもとに研究・改善点の話し合い
- ◇10月2日 研究授業
会 場：清泉中学校
授業者：榊克敏 教諭（清泉中）
内 容：TOTAL ENGLISH COURSE 3
Talking Time Asking the Way
- ◇部 会
「小中連携について」
日 程
①1月20日（月） 会場：共成小学校
②2月3日（月） 会場：共成小学校
③2月7日（金） 会場：つつじヶ丘南小学校
内 容：各小学校の外国語活動授業を参観
(拝島中学校教諭 石黒小百合 記)

調 布 市

I. 研究主題

「生き生きと学び教えるために
—魅力ある授業法を実践例から学ぶ—」

II. 研究の経過

◇8月20日 研修会

テーマ：「表現力を伸ばす」

講師：福永勝利 主任教諭

(印旛明誠高校)

内 容：話すこと、書くことの指導につ
いて貴重な実践をお聞きするこ
とができた。

◇10月10日 研修会

テーマ：「教科書One Worldの

活用法」

講師：酒井藤恵 講師

(東京家政大学)

教科書編集部

内 容：ワークショップ形式の授業実演
と編集部の方々への質疑・応答
により、授業における教科書活
用法について検討することがで
きた。

◇11月13日 公開授業

テーマ：「One Worldを活用しての
授業」

授業者：加藤真由子 教諭 (五中)

講師：本多敏幸 主任教諭

(九段中等教育学校)

内 容：研究授業の流れに沿って、本多
先生が分析して授業の実践法に
ついてお話し下さり、多くを分
かりやすく学ぶことができた。
(第三中学校教諭 井手明子 記)

町 田 市

I. 研究主題

「新学習指導要領についての指導方
法の研究」

II. 研究の経過

◇4月11日 町田市中教研英語部会

会 場：町田第一中学校

「今年度の研究主題および活動計画」

今年度の英語部会の組織を決め、上記に
ついて討議した。研究主題は昨年度と同
じものとし、今年度さらに深めることを
確認した。また、今年度当初のALT配
置の変更による混乱について意見交換し
た。

◇11月6日 町田市中教研英語部会

テーマ：「語彙力を増やす指導の工夫」

会 場：町田第二中学校

講師：青柳有季 教諭

(東京学芸大学附属小金井中学校)

言語活動のねらいを「教科書を基本に据
え、3年間スパイラルに繰り返す」と
し、様々なインタラクションを通じて生
徒を揺さぶり、成功体験を積み重ねてい
く授業の過程を、ワークショップ形式で
参加教員全員が体感した。

ALTとの協同やi Padの活用も含め、非
常に有意義な研修会であった。

◇2月7日 町田市中教研英語部会

会 場：町田第二中学校

授業者：小川史哲 教諭

(町田第二中学校)

教師道場の授業研究との共催という形で
行う予定である。

(山崎中学校教諭 大橋勝 記)

小 金 井 市

I. 研究主題

「充実したコミュニケーション活動をめざして」

II. 研究の経過

- ◇4月25日 市教研総会、一斉部会、
組織作り、研究主題の設定、
年間活動計画作成
- ◇6月5日 市教研部会
情報交換
各校ワークシートの情報交換
- ◇7月23日 市教研部会
情報交換
研究発表会の打ち合わせ
- ◇9月17日 研究授業
授業者：荻原真也 教諭
(小金井市立緑中学校)
講 師：刀根武史 校長
(小金井市立緑小学校)
- ◇11月6日 市教研部会
情報交換
口頭発表に向けての打ち合わせ
- ◇1月15日 講演会
講 師：渡辺一史 教諭
(府中市立府中第五中学校)
- ◇2月5日 市教研発表会
場 所：小金井市民交流センター
(小金井市立南中学校教諭 葛岡明子 記)

小 平 市

I. 研究主題

「効果的なグループワーク」

II. 研究の経過

- ・研修会
「自己表現力を高める指導の工夫」
講 師：太田洋 先生 (駒沢女子大学)
- ・研修会
「効果的なグループワーク」
講 師 本多敏幸 先生
(九段中等教育学校主任教諭)
- ・研修会
「支援を要する生徒と英語教育」
講 師：村上加代子 先生
(神戸山手短期大学)
- ・授業研究
Lesson 4 Field Trip
(第1学年・New Crown)
授業者：大川京子 教諭 (上水中学校)
講 師：五十嵐浩子 校長
(小平第一中学校)
- ・研修会
英語学習worksheetによる情報交換
- ・成 果
効果的なグループワーク、特別な支援を要する生徒への指導についての研修会、ワークシートについての情報交換を行い、個に応じた指導方法が広がり、きめ細かい指導ができるようになった。また、小中連携を通じて、授業内容や指導方法について互いに学び合い、それぞれの指導に採り入れることで一貫した指導ができるようになっていくことが期待できる。
(小平第四中学校教諭 久保田隆夫 記)

日 野 市

I. 研究主題

「生徒が主体的に参加し、考える力を育成する授業」

～ユニバーサルデザインを意識して～

II. 研究の経過

- ◇5月8日 中教研総会
- ◇6月12日 授業研究①小中連携研究
授業者：日野市立日野第六小学校
阿部 梢 主任教諭
講 師：国立木更津工業専門学校
清水公男 教授
- ◇7月3日 授業研究②
授業者：日野市立日野第一中学校
森 敏 主任教諭
講 師：日野市立日野第三中学校
石村康代 校長
- ◇8月26日 小平市中学校教育研究会
夏期研修会（小平一中）
講 師：神戸山手短期大学
村上加代子 准教授
- ◇9月11日 授業研究③小中高連携研究
授業者：日野市立日野第二中学校
中野陽子 教諭
講 師：上智大学 和泉伸一 教授
- ◇10月2日 授業研究④
授業者：日野市立日野第三中学校
中島亜沙 教諭
講 師：国立木更津工業専門学校
清水公男 教授
- ◇11月15日 三中、三沢中におけるUD化
を意識した授業の実践報告
- ◇2月19日 研究発表会
(日野第一中学校教諭 磯美智代 記)

東 村 山 市

I. 研究主題

「教科書改訂に伴う授業づくりの更なる
充実～指導実践と交流～」

II. 研究の経過

- ◇4月10日 統一部会（富士見小学校）
- ◇5月15日 定期総会（中央公民館）
- ◇6月5日 都立学力検査に関する研究
- ◇7月18日 小学校外国語活動参観
(秋津東小学校)
- ◇9月4日 CAN-DOリストの作成に
ついで報告
- ◇10月9日 ワークショップ
テーマ：「英語の読解力、聞き取る力を
高める指導の工夫」
講 師：都立国分寺高校
谷口幸夫 主任教諭
内 容：授業のバージョンアップ
- ◇11月6日 研究授業
授業者：谷川研嗣 教諭（四中）
講 師：東村山第六中学校
宗像宏中 校長
内 容：4技能のバランスと展開
- ◇12月4日 研究授業
授業者：伊藤 光 教諭（一中）
講 師：国分寺市立第三中学校
重松 靖 校長
内 容：外国語学びのプロセス
- ◇1月8日 授業実践交流
- ◇2月19日 研究発表会（中央公民館）
- ◇3月5日 今年度のまとめ
(東村山第五中学校主幹教諭
美濃谷ひろみ 記)

国 分 寺 市

I. 研究主題

「教科書を活用した表現力の育成」

II. 研究の経過

◇4月11日 市教研一斉部会

研究主題・年間計画の検討

◇6月5日 研修会

テーマ：教科書の活用と指導のねらいについて

講 師：New Crown編集者

富岡次男 氏

内 容：各活動に重点をおいた教科書の指導法を学んだ。

◇10月9日 研究授業

授業者：川島睦美 教諭（国分寺一中）

内 容：New Crown 2

Lesson5 My Dream

不定詞名詞的用法

講 師：五十嵐浩子 先生

（小平第一中学校長）

◇1月15日 研修会

テーマ：これからの英語教育の展望

講 師：日本英語検定協会

Jun Kodama 氏

内 容：学習者をどのようにして
BICS(Basic Interpersonal
Communicative Skills)から
CALP(Cognitive Academic
Language Proficiency)へと育
てていくかという示唆に富んだ
内容だった。

（第五中学校教諭 山内晶子 記）

国 立 市

I. 研究主題

「コミュニケーション活動の充実を目指す小中連携」

II. 研究の経過

◇4月17日 組織編成・主題設定

◇5月8日 研究授業指導案検討

◇6月5日 研究授業

及び研究協議・指導講評

授業者：国立第一中学校

小林 覚 教諭

内 容：疑問詞

◇7月22日 公開授業指導案検討

◇9月11日 公開授業指導案検討

◇11月6日 公開授業

及び研究協議・指導講評

授業者：国立第六小学校

板倉千恵 教諭

内 容：You are my friends.

～外国人留学生との交流会に

向けて準備をしよう～

◇1月22日 研究のまとめ

及び研究紀要作成協議

（国立第二中学校教諭 菅原幸弘 記）

福 生 市

I. 研究主題

「自ら考えて学ぶ児童生徒の育成」
～小中9年間の連続性を意識して～

II. 研究の経過

- ◇4月17日 年間計画の作成
研究主題設定
- ◇6月12日 小学校外国語学習
(福生第六小学校六年生の授業観察)
- ◇8月9日 ワークショップ
テーマ：「特別支援6.5%の生徒に
対応する授業」
講 師：瀧沢広人 先生
(埼玉県小鹿野市立小鹿野小学校教諭)
- ◇9月4日 研究授業
テーマ：「疑問詞を使用した疑問文の
表現活動」
授業者：須田和也 主任教諭
寺沢陽子 主任教諭
鈴木聡美 教諭
(以上 福生二中)
講 師：相沢秀和 先生
(国分寺第一中学校主任教諭)
- ◇12月26日 ワークショップ
テーマ：「授業ですぐ使える指導法」
講 師：川村光一 先生
(埼玉県春日部市立豊野中学校教頭)
- ◇1月22日 小学校外国語学習
(福生第七小学校の授業観察)
講 師：瀧沢広人 先生
(埼玉県小鹿野市立小鹿野小学校教諭)
- ◇2月12日 福教研報告会
(福生二中主任教諭 須田和也 記)

狛 江 市

I. 研究主題

「新しい教科書を使って」
～評価について考える～

II. 研究の経過

- ◇4月3日 一斉部会
英語部組織作り、研究主題決め
 - ◇5月7日 定期総会
 - ◇7月8日 部長会
 - ◇8月21日 部会
第一部：評価について
第二部：デジタルテキストについて
 - ◇10月7日 研究授業(狛江三中)
授業者：榎野真弓 教諭
授業内容：New Crown3 Lesson5
Houses and Lives
講 師：三省堂英語教科書編集部
副編集長 石田興三 氏
和田朋子 准教授
(工学院大学基礎・教養教育部門外国語科)
小中合同教研のため、小学校の先生からの
意見なども聞けて、連携の大切を改めて
知ることができ、有意義であった。
 - ◇11月18日 部長会
 - ◇1月20日 部長会
 - ◇2月24日 研究・活動報告会
- ## III. 成果と課題
- ・教科書の改訂に伴う、評価の共通理解
を図ることができた。
 - ・今後は小中連携をより密にしてい
くことが課題である。
(狛江第四中学校教諭
エメールフランソワ夏樹 記)

東 大 和 市

I. 研究主題

「アウトプットを中心とした言語
活動の充実を図る指導」

II. 研究の経過

◇5月15日 一斉部会

①自己紹介

②部長・会計選出

③活動計画の作成、研究主題の検討

◇8月22日 研究会 I

講 師：大里信子 先生

(東京学芸大学付属小金井中学校教諭)

内 容：アウトプットできるようになるための前提条件を確認した上で、「話すこと」「書くこと」を中心とした活動例を紹介いただいた。

◇11月6日 研究部会 II

①研究授業

授業者：庄司祐介 教諭 (第二中)

対 象：1年C組 28名

単 元：TOTAL ENGLISH NEW
EDITION Lesson 5

②研究協議および各校より授業実践報告

(第二中学校教諭 坂口玲子 記)

清 瀬 市

I. 研究主題

「新学習指導要領の目標達成へとつながる指導法の研究」

II. 研究の経過

◇5月8日 教育研究会

会 場：清瀬第四中学校

内 容：研究主題の設定、年間活動計画の作成、情報交換

◇7～8月 研修会・ワークショップへの参加。

◇8月9日 中英研プロジェクトチーム部主催の研修会にタイアップして清瀬市の研修を実施

テーマ：「新学習指導要領の全面実施に向けて、円滑な移行となる中学校英語の役目」

講 師：太田 洋 先生

(駒澤女子大学教授)

◇11月6日 教育研究会

会 場：清瀬第五中学校

内 容：研修内容の報告、実践報告、情報交換

◇1月21日 研修会

(ビデオによる授業研究)

会 場：清瀬中学校

授業者：橋本真希 教諭

授業内容：NEW CROWN 2 Lesson 8

講 師：本多敏幸 先生

(千代田区立九段中等教育学校主任教諭)

(清瀬第五中学校教諭 星野順子 記)

東久留米市

I. 研究主題

「学習指導要領に対応したバランスのよい4技能の指導」

「小中連携を意識した英語教育のあり方」

II. 研究の経過

◇5月15日 市授業改善研

研究主題・情報交換

◇7月3日 研究授業

東中学校1年生

授業者：都志史也 教諭

講師：国分寺市立第三中学校長

重松 靖 先生

◇11月6日 研究授業

大門中学校1年生

授業者：藤勝大介 教諭

講師：元玉川大学講師・小学校英語指導者認定協議会理事

松香洋子 先生

◇研究のまとめ

1. 4技能の活動がバランスよく1時間の中にまとめられる授業デザインを研究することが課題である。「話す・聞く」活動に続く「書く・読む」活動が授業の中でどのように展開されるとよいか研究を進める。
2. 小学校の学習成果を生かすために、英語による導入を意識して取り入れ語彙と文法をレベルアップさせていくような指導を工夫する。

(南中学校主幹教諭 三田村規子 記)

武蔵村山市

I. 研究主題

「聞く力に焦点をあてた言語能力の育成」

II. 研究の経過

◇4月17日

市中教研一斉部会

・組織編成

・研究主題設定

・年間計画 等

◇10月16日

第3中学校授業実践交流会

第2学年習熟度別少人数指導

授業者：小野瀬佳図 教諭 (定着コース)

松橋 翔 教諭 (基礎コース)

単元名：Total English Lesson5

「Career Experience」

講師：江東区立有明中学校副校長

林伸之 先生

◇11月6日

第2回部会 研修会

「中学校の英文法導入から定着まで」

講師：小鹿野町立小鹿野小学校

瀧澤広人 先生

◇2月12日

第3部会 研究授業および情報交換

授業者：第1中学校

伊藤理恵 教諭

(村山学園主任教諭 田中輪香子 記)

多 摩 市

I. 研究主題

「授業の研究改善」

II. 研究の経過

◇5月8日

市中教研一斉部会

会 場：落合中学校

内 容：（1）英語部組織作り
（2）研究主題と年間計画決定

◇6月14日

研究授業

会 場：落合中学校

授業者：深田美紀子 教諭

Ms Sasaki Linda(ALT)

意見交換：「効果的なチームティーチ
ングの在り方について」

◇11月6日

研究授業

会 場：和田中学校

授業者：深沢のり子 教諭

内 容：不定詞名詞的用法

講 師：都中学校英語研究会会長

国分寺第三中学校校長

重松 靖 先生

◇2月14日

多摩市研究発表会

会 場：落合中学校

聖ヶ丘中学校

(諏訪中学校教諭 安藤俊子 記)

稲 城 市

I. 研究主題

「児童・生徒に自信を持たせるインプッ
トの工夫」

II. 研究の経過

◇5月8日 指導案検討

◇6月12日 ワークショップ

講 師：太田 洋 教授

(駒沢女子大学)

◇8月26日 ワークショップ

講 師：ボーダリンク英語指導相談員、

コーディネーター、

NT(Native Teacher) 3名

◇9月11日 研究授業

授業者：川邊耕太 (稲城第四中)

単 元：New Crown 1, Lesson 4

講 師：関 実 副校長

(新宿区立牛込第二中学校)

◇10月9日 研究授業

授業者：岡村泰佑 (稲城第二中)

単 元：New Crown 1, Lesson 5

講 師：竹村きよみ 副校長

(日野市立日野第二中学校)

◇11月13日 研究授業

授業者：前田小百合 (稲城第一小)

学 級：小学校第5学年3組

単 元：Hi Friends! I study Japanese

講 師：太田 洋 教授

(駒沢女子大学)

◇1月9日 ビデオによる授業研究

授業者：伊地知ふゆ彦 (稲城第三小)

学 級：小学校第4学年1組

単 元：Animals in English!

(稲城第一中学校主任教諭 増渕素子 記)

あ き る 野 市

I. 研究主題

「4技能を伸ばす指導の工夫」
「小中学校の円滑な連携を目指した具体的な指導の工夫」

II. 研究の経過

◇6月12日 授業研究 I

会 場：御堂中学校

授業者：嘉戸美紗子 教諭

授業内容：NEW CROWN 2
We're Talking③

講 師：小平市立小平第一中学校
五十嵐浩子 校長

◇8月23日 授業力向上研修

会 場：西中学校

内 容：「効果的なスピーキング活動の指導方法」

講 師：東京都江東区立有明中学校
原田博子 主任教諭

◇10月16日 授業研究 II

(台風のため中止)

会 場：西中学校

授業者：福田里美 教諭
花房秀美 教諭

授業内容：NEW CROWN 2
We're Talking⑤

講 師：千代田区立九段中等教育学校
石井 亨 主任教諭

◇1月15日 授業研究 III

会 場：五日市中学校

授業者：上水謙治 教諭

授業内容：NEW CROWN 3
Lesson8 English for Me

講 師：駒沢女子大学
太田 洋 教授

(西中学校教諭 花房秀美 記)

西 東 京 市

I. 研究主題

「新学習指導要領実施後の課題の解決に向けて～コミュニケーション活動のさらなる充実～」

II. 研究の経過

◇5月8日 西東京市中学校教育研究会 定期総会、一斉部会

①本年度役員の確認

②今年度活動計画の立案

◇8月8日 夏季研修会

テーマ：Active Learning for
Improving Students' Self-
Study Attitude and Ability

講 師：都立両国高等学校附属中学校
山本崇雄 先生

内 容：生徒の自学自習する態度や能力を育成するために、日々の授業の中でどのような活動を行っていかを考える研修であった。

◇11月6日 授業研究及び研修会

授業者：長澤利尚 主任教諭

永野由美 教諭

安藤俊弥 教諭

(西東京市立田無第四中学校)

講 師：杉並区立井草中学校 校長
池田武男 先生

内 容：研究授業の講評をいただいた後、その後、少人数授業のあり方や教科書の使い方についてご指導いただいた。

(ひばりが丘中学校教諭 太田真文 記)

羽村市・西多摩

I. 研究主題

「生徒の学ぶ意欲を高め、英語で互いの考えを伝え合う力を養うための工夫」

II. 研究の経過

◇8月23日 夏期研修会

会 場：羽村市立羽村第一中学校

参加校：5校

テーマ：「外国語活動と英語科の
小中連携について」

講 師：北区王子桜中学校主任教諭
根本 誉 先生

内 容：今年度のテーマのもと、どのような工夫を通して学ぶ意欲を高め、積極的に互いの考えを英語で伝え合う力を身につけられるかを考察し、小中の連携とも絡めながら、即授業に応用できる実践的な指導法を学んだ。

根本先生がアメリカの大学院で研究された第二言語習得論をもとに、「コミュニケーション能力とは」、「日本の英語教育の現状」、「今後の方向性」「オーラルイントロダクションの重要性」や「動機付けの必要性とその工夫」などを学んだ。模擬授業やロールプレイなど授業で使えるアイデアがたくさん詰まった実践的な内容だった。

◇10月30日 研究授業

会 場：羽村市立羽村第一中学校

授業者：工藤梨奈教諭（羽村一中）

テーマ：「生徒の学ぶ意欲を高め、英語で互いの考えを伝え合う力を養うための工夫」

講 師：羽村市立小作台小学校副校長
中村淳子 先生

内 容：「テーマに基づく指導工夫の実践」

単元としては日本人の英語学習者がつまずきやすい三単現のSを扱う。文法的な細かな指導よりも、文法項目を意識しながらListening活動やpair workを重視し、生徒自身が考え、生徒同士で考えを伝え合うことで答えを導き出す工夫や、個人の考えをクラスで共有し、認め合うことで生徒の自信につながるような工夫が授業の中で行われていた。

(羽村第一中学校教諭 澁江 暁 記)

大 島 町

I. 研究主題

「新学習指導要領に沿った指導の工夫」

II. 研究の経過

- ◇ 4月24日 町中学英語研究会
 - ①平成24年度活動報告
 - ②平成25年度組織作り
研究主題・年間活動計画の検討
- ◇ 6月12日 教育研究会英語部会
場 所：大島町立第一中学校
 - ① 6月20日研究授業指導案について
 - ②情報交換
- ◇ 6月20日 教育研究会英語部会
場 所：大島町立第三中学校
 - ①研究授業
対 象：第3学年
授業者：吉本 洋人先生
 - ②研究協議
 - ③情報交換
- ◇ 10月16日 教育研究会英語部会
※台風災害により中止
- ◇ 11月27日 教育研究会英語部会
場 所：大島町立第二中学校
 - ①研究授業
対 象：第1学年
授業者：梅田 篤 先生
 - ②研究協議
 - ③情報交換
- ◇ 1月29日 教育研究会英語部会
場 所：大島町立第一中学校
 - ①本年度の反省と来年度の課題協議
(第三中学校主幹教諭 吉本洋人 記)

八 丈 町

I. 研究主題

「表現力をはぐくむ文法力の育成」

II. 研究の経過

- ◇ 4月16日 第1回部会
組織作り、研究主題・活動計画検討
- ◇ 6月10日 研究授業
会 場：大賀郷中学校
対 象：第1学年
授業者：寺本歩美 教諭
- ◇ 7月3日 第2回部会
島内共通テスト検討会
(1学期始めに第2・第3学年で実施。
2学期始めに全学年で実施)
- ◇ 10月12日 第3回部会
島内共通テスト検討会、
国際理解教室打ち合わせ
- ◇ 11月21日 研究授業
会 場：富士中学校
対 象：第2学年
授業者：松岡 永 教諭
- ◇ 国際理解教室
講 師：Mr. David Goginashvili
(グルジア出身)
※12月5日：三原中学校・大賀郷学
校、12月6日：富士中学校)
- ◇ 2月18日 研究授業
会 場：三原中学校
対 象：第1学年
授業者：山入端 信之 主幹教諭
- ◇ 2月18日 第4回部会
予算執行報告、研究のまとめ
(大賀郷中学校主幹教諭 石橋弘毅 記)

平成 25 年度 中英研事業報告

1. 4月24日（水）役員会

於：豊島区立千登世橋中学校

- ①役員組織等の確認
- ②年間事業計画の検討
- ③中英研定期総会に向けて
- ④役員会の日程
- ⑤関ブロ群馬大会
- ⑥全英連東京大会関係等

2. 5月10日（金）定期総会・懇親会

於：豊島区立千登世橋中学校

- ①24年度事業報告
- ②24年度決算報告
- ③24年度会計監査報告
- ④新役員の承認
- ⑤25年度基本方針の承認
- ⑥25年度事業計画・予算の承認
- ◎講演会

「これからの英語教育について」

講師：高橋貞雄 先生

玉川大学文学部教授

◎懇親会

3. 6月10日（月）役員会

於：港区立青山中学校

- ①全英連中学校部研究協議会
及び全英連東京大会について
- ②関ブロ群馬大会について
- ③関ブロ理事研修会について
- ④地区部長、幹事名簿について
- ⑤十五大都市千葉大会について
- ⑥中英研だよりについて
- ⑦サマーワークショップについて
- ⑧都中英研部長・幹事会について

4. 7月12日（金）役員会

於：豊島区立千登世橋中学校

- ①関ブロ群馬大会進捗状況
- ②全英連東京大会について
- ③サマーワークショップ関係
- ④都中英研地区部長・幹事会について

5. 7月17日（水）

「都中英研だより」第65号発行

6. 7月30日（火）

第1回研究部夏期語り指導ワークショップ

於：世田谷区立三宿赤坂中学校

指導者：関口 智 先生

江戸川区立清新第一中学校

太田 恵理子 先生

葛飾区立上平井中学校

北原延晃 先生

港区立赤坂中学校教諭

8月7日（水）

第2回研究部夏期語り指導ワークショップ

於：千代田区立九段中等教育学校

指導者：前田 宏美先生

葛飾区立桜道中学校

上尾栄美子 先生

江戸川区立篠崎第二中学校

石井 亨 先生

千代田区立九段中等教育学校

8月23日（金）

第3回研究部夏期語り指導ワークショップ

於：品川区立荏原第六中学校

指導者：壽原友理子先生

世田谷区立三宿中学校

岡崎伸一 先生

品川区立荏原第六中学校

大矢由希 先生

練馬区立豊溪中学校

7. サマーワークショップ（事業部主催）

8月20日（火）

於：千代田区立九段中等教育学校

講師：坪田裕希 先生

渋谷区立原宿外苑中学校

- 加藤真由子 先生
調布市立第五中学校
日臺滋之 先生
玉川大学教授
8. 8月22日(木) 役員会
於：豊島区立千登世橋中学校
- ①関ブロ群馬大会について
②全英連東京大会について
「区市町村英語教育研究部部長会
・幹事会」
③各地区の活動状況について
- ◎講演会
「CAN-DOリストの作成について」
千代田区立九段中等教育学校
田口徹 先生
9. 10月10日(木) 役員会
於：豊島区立千登世橋中学校
- ①関ブロ群馬大会関係
②全英連東京大会関係
10. 10月18日(金)
第53回大都市公立中学校
英語教育研究連絡協議会
於：千葉市
11. 10月24日(木)
授業力アップ研修会(事業部主催)
於：府中市立府中第五中学校
授業者：渡邊一史 先生
府中第五中学校
講師：久保田雅史 先生
神奈川大学准教授
12. 11月15日(金)
第37回関東甲信地区中学校
英語研究協議会 群馬大会
於：前橋市民文化会館
県外提案発表者：第1分科会
授業者：紺野正典 先生
足立区立第六中学校
指導助言者：西貝裕武 先生
足立区教育委員会
13. 11月16日(土) 17日(日)
第63回全国英語研究大会東京大会
於：第1日目大田区立「アプリコ」
- 第2日目東京工科大学
14. 12月1日(日)
第66回英語学芸大会
於：豊島区立千登世橋中学校
15. 12月4日(水) 役員会
於：豊島区立千登世橋中学校
- ①関ブロ群馬大会について
②全英連東京大会について
③研究部授業公開と研究発表について
④英語学芸大会について
16. 12月16日(月)
「都中英研だより」第66号発行
17. 1月15日(水) 役員会
於：豊島区立千登世橋中学校
- ①研究部発表会の準備
②平成26年度役員人事案
18. 1月30日(木)
プロジェクトチーム部研修会
授業者：三木初香 先生
杉並区立中瀬中学校
講師：本田敏幸 先生
九段中等教育学校
19. 2月20日(木) 役員会
於：豊島区立千登世橋中学校
- ①研究部発表会について
②平成26年度役員人事について
③次年度活動計画について
20. 2月24日(月)
中英研研究部発表会
於：千代田区立九段中等教育学校
- ①授業者：小川登子 教諭
②研究発表「語いと英語教育(24)」
③研究協議：パネルディスカッション
21. 3月中旬「中英研会報」発行予定
22. 3月末 役員会予定
於：豊島区立千登世橋中学校
- ①25年度各部事業・決算報告
②次年度新役員構成の確認
③次年度総会について
④情報交換
(総務部長 飯島光正 記)

東京都中学校英語教育研究会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は東京都中学校英語教育研究会と称する。
第2条 本会は事務局を会長指定の場所に置く。
第3条 本会は東京都中学校の英語教育関係者を会員とする。

第2章 目的及び事業

- 第4条 本会は中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に、英語教育の振興を図ることを目標とする。
第5条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1. 各種研修会の開催（研修会、発表会、講演会等）
2. 調査活動（コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等）
3. 研究活動（英語教育に関わる基礎的かつ実践的な課題等）
4. 各種英語教育団体との連絡
5. 機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

第3章 役員及び幹事

- 第6条 本会には次の役員および幹事をおく。
1. 会長1名
2. 副会長若干名
3. 部長各部ごと1名
4. 副部長各部ごと若干名
5. 会計監査2～3名
6. 幹事各区、市ごとに1名
第7条 役員を選出は次のとおりとする。
1. 会長・副会長は役員会の推薦により、総会の承認を得なければならない。
2. 部長・副部長は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
3. 会計監査は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
第8条 役員の仕事は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総括する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行すると共に、各部を分担する。
3. 部長は担当副会長と協議の上、部会を招集し、会務を執行する。
4. 幹事は本部と各地区との連絡にあたる。
5. 事務局は総務部が担当し、事務局長は総務部長があたる。

6. 会計監査は会計の監査を行い、その結果を総会に報告する。
- 第9条 役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。
- 第10条 本会に相談役、参与及び顧問をおくことができる。
1. 相談役はOB会長及び副会長より、参与は現職校長より役員会の推薦により会長が委嘱する。
 2. 顧問は英語科出身の指導主事より会長が委嘱する。

第4章 会 議

- 第11条 会議は次のとおりとする。
1. 総 会
毎年1回会長が招集し、会務の報告、役員的人事、予算、決算等を審議し、決定する。ただし、必要がある場合は臨時に開くことができる。
 2. 役員会
会長・副会長・部長をもって構成し、必要に応じて副部長・会計監査を加え、会長の諮問機関とする。
 3. 幹事会
役員・幹事をもって構成し、学期1回以上例会を開き、会務を執行する。
 4. 部 会
[総務部] 庶務、会計・渉外および他部に属さない事項の処理
[事業部] 会の年間計画・英語学芸会・研修会、その他会長より委嘱された事業の立案・計画・推進
[調査部] コミュニケーションテスト及び英語教育に関する調査の実施
[研究部] 語彙指導などの研究活動とその普及のための広報活動、研究発表会および公開授業の開催
[出版部] 中英研だより・会報などの発行
[プロジェクト・チーム部] 英語教育に関わる今日のかつ実践的な課題についての研究の推進

第5章 会 計

- 第12条 本会の会費は東京都中学校教育研究会よりの交付金をもってあてる。
- 第13条 本会の経費は会費およびその他の収入による。
- 第14条 本会の予算・決算は総会の承認を得なければならない。
- 第15条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 付 則

- 第16条 本会則は昭和60年4月1日より実施する。
- 第17条 本会則の変更は総会の承認を得なければならない。
- 第18条 細則は幹事会で定めることができる。
- 第1次改定 第5条2、3及び第4章4は平成17年5月19日より実施する。

平成 25 年度 東京都中学校英語教育研究会役員名簿

役 名	氏 名	所 属 校
会 長	重 松 靖	国分寺市立 第三 中 学 校
副 会 長	飯 島 光 正	豊 島 区 立 千 登 世 橋 中 学 校
”	牛 島 順 子	目 黒 区 立 第 四 中 学 校
”	阿 字 宏 康	荒 川 区 立 第 一 中 学 校
”	石 鍋 浩	足 立 区 立 蒲 原 中 学 校
”	松 岡 敬 明	武 蔵 野 市 立 第 一 中 学 校
”	惣 田 修 一	足 立 区 立 浏 江 中 学 校
”	福 井 正 仁	港 区 立 青 山 中 学 校
”	松 永 透	三 鷹 市 立 連 雀 学 園 第 一 中 学 校
”	和 田 文 宏	大 田 区 立 蒲 田 中 学 校
”	井 田 宗 宏	練 馬 区 立 豊 玉 中 学 校
総 務 部 長	飯 島 光 正	豊 島 区 立 千 登 世 橋 中 学 校
経 理 部 長	佐 藤 恭 子	世 田 谷 区 立 尾 山 台 中 学 校
副 部 長	福 井 正 仁	港 区 立 青 山 中 学 校
”	菅 野 宏 治	豊 島 区 立 池 袋 中 学 校
部 員	田 中 誠 一 郎	府 中 市 立 第 八 中 学 校
”	近 藤 浩	世 田 谷 区 立 玉 川 中 学 校
”	堀之内 國 義	足 立 区 第 十 三 中 学 校
”	新 野 美 紀	練 馬 区 立 石 神 井 東 中 学 校
”	滝 口 均	東 京 都 立 桜 修 館 中 等 教 育 学 校
”	長 尾 諭	大 田 区 立 石 川 台 中 学 校
”	佐々木 昭 央	目 黒 区 立 目 黒 第 九 中 学 校
担 当 副 会 長	和 田 文 宏	大 田 区 立 蒲 田 中 学 校
調 査 部 長	五十嵐 浩 子	小 平 市 立 小 平 第 一 中 学 校
副 部 長	本 多 敏 幸	千 代 田 区 立 九 段 中 等 教 育 学 校
”	岩 崎 紀 美 子	八 王 子 市 立 別 所 中 学 校
部 員	荒 川 高 広	台 東 区 立 柏 葉 中 学 校
”	安 部 智 秀	あ き る 野 市 立 東 中 学 校
”	石 原 公 仁 余	日 野 市 立 七 生 中 学 校
”	大 澤 陽 子	大 田 区 立 大 森 第 七 中 学 校
”	大 竹 希 依 子	小 平 市 立 小 平 第 一 中 学 校

役名	氏名	所属校
部員	大森 博	練馬区立中村中学校
"	小川 登子	都立白鷗高等学校附属中学校
"	小椋 由紀子	荒川区立第七中学校
"	川口 三保子	府中市立府中第六中学校
"	岸川 裕子	府中市立府中第七中学校
"	木下 泰孝	立川市立立川第八中学校
"	木村 弘恵	目黒区立第七中学校
"	近藤 江美	清瀬市立清瀬第二中学校
"	斉藤 基	日野市立三沢中学校
"	柴野 泰行	足立区立渕江中学校
"	白井 靖子	江東区立第二大島中学校
"	高瀬 ひとみ	千代田区立九段中等教育学校
"	永井 剛	あきる野市立五日市中学校
"	西尾 恭子	江東区立第二砂町中学校
"	宮崎 大樹	あきる野市立秋多中学校
"	山下 郁子	世田谷区立松沢中学校
"	鈴木 悟	小笠原村立小笠原中学校
"	田平 真季	大田区立大森第八中学校
"	三木 謙二郎	大田区立馬込中学校
"	料所 奈緒子	江戸川区立松江第五中学校
担当副会長	井田 宗宏	練馬区立豊玉中学校
事業部長	横山 達也	八王子市立第七中学校
副部長	田口 徹	千代田区立九段中等教育学校
"	田島 久士	大田区立糀谷中学校
"	相沢 隆二	文京区立第十中学校
部員	米澤 登志子	目黒区立第十一中学校
"	明石 達彦	江戸川区立西葛西中学校
"	大屋 剛	世田谷区立烏山中学校
"	宮野 和子	三鷹市立にしみたか学園
"	斉藤 節子	清瀬市立清瀬第二中学校
"	漆畑 拓也	町田市立鶴川中学校

役名	氏名	所属校
部員	前川卓哉	渋谷区立松濤中学校
〃	本多光三	国分寺市立第一中学校
〃	大竹希依子	小平市立小平第一中学校
担当副会長	松岡敬明	武蔵野市立第一中学校
研究部長	北原延晃	港区立赤坂中学校
副部長	石井亨	千代田区立九段中等教育学校
〃	関口智	江戸川区立清新第一中学校
〃	原田博子	江東区立有明中学校
部員	横山牧子	世田谷区立奥沢中学校
〃	溪内明	千代田区立九段中等教育学校
〃	大矢由季	練馬区立豊溪中学校
〃	岡崎伸一	品川区立荏原第六中学校
〃	金子健次郎	大田区立田園調布中学校
〃	上尾栄美子	江戸川区立篠崎第二中学校
〃	江濱悦子	大田区立貝塚中学校
〃	中川智子	大田区立大森第十中学校
〃	太田恵理子	葛飾区立上平井中学校
〃	前田宏美	葛飾区立桜道中学校
〃	壽原友理子	世田谷区立三宿中学校
〃	品川智佳子	世田谷区立梅丘中学校
〃	大竹順子	八王子市立松木中学校
担当副会長	石鍋浩	足立区立蒲原中学校
出版部長	池田武男	杉並区立井草中学校
副部長	小柳守生	江戸川区立西葛西中学校
〃	今本由美子	練馬区立大泉中学校
部員	中井正弘	中野区立第四中学校
〃	赤塚貴音	台東区立桜橋中学校
〃	鈴木咲子	東村山市立東村山第七中学校
〃	岡部芳枝	足立区立入谷南中学校
〃	當麻忠幸	西東京市立明保中学校
〃	上村真衣	杉並区立井草中学校

平成 25 年度 顧問

氏 名	役 職
高野 敬三	教育監（教職員研修センター所長兼務）
宇田 剛	東京都教職員研修センター企画部企画課長
川越 豊彦	教育庁都立学校教育部入学選抜担当課長
小澤 哲郎	教育庁指導部主任指導主事
永森 比人	教育庁指導部主任指導主事
瀧沢 佳宏	教育庁指導部主任指導主事
清野 正	豊島区教育委員会教育指導課長
米村 珠子	教育庁指導部高等学校教育指導課統括指導主事
高橋 美香	千代田区教育委員会統括指導主事
大槻 亨	練馬区教育委員会統括指導主事
西貝 裕武	足立区教育委員会統括指導主事
中原 明寿	町田市教育委員会統括指導主事
窪田 香	教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事
堀江 敏彦	教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事
松鶴 賢二	教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事
堀内 明	教育庁都立学校教育部高等学校教育課指導主事
森田 剛	教育庁都立学校教育部高等学校教育課指導主事
瀬田 栄治	教育庁人事部試験課指導主事
深尾 絵美子	東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課指導主事
田中 春子	東京都教職員研修センター研修部教育開発課指導主事
小山 多香子	東京都教職員研修センター研修部授業力向上課指導主事
粕谷 真由美	西部学校経営支援センター学校経営支援主事
森口 美佳	千代田区教育委員会指導主事
丸山 順子	中央区教育委員会指導主事
佐藤 勝也	文京区教育委員会指導主事
矢野 聡	品川区教育委員会指導主事
鵜沢 由季子	世田谷区教育委員会指導主事
東條 貴史	中野区教育委員会指導主事
宮坂 葉月	杉並区教育委員会指導主事
荒木 忍	練馬区教育委員会指導主事
梅津 靖子	立川市教育委員会指導主事
鈴木 達彦	調布市教育委員会指導主事
酒井 章	町田市教育委員会指導主事
中谷 愛	多摩市教育委員会指導主事
加藤 治紀	あきる野市教育委員会指導主事

参 与

氏 名	学 校 名	職 名
新 庄 惠 子	港 区 立 高 陵 中 学 校	校 長
和 田 雅 光	文 京 区 立 本 郷 台 中 学 校	”
田 谷 至 克	墨 田 区 立 寺 島 中 学 校	”
原 田 承 彦	大 田 区 立 田 園 調 布 中 学 校	”
内 山 哲 夫	大 田 区 立 羽 田 中 学 校	”
岩 崎 正 道	世 田 谷 区 立 三 宿 中 学 校	”
野 瀬 博	世 田 谷 区 立 弦 巻 中 学 校	”
菅 野 武 彦	杉 並 区 立 西 宮 中 学 校	”
永 嶋 昌 博	北 区 立 桐 ケ 丘 中 学 校	”
飯 塚 徳 彦	北 区 立 神 谷 中 学 校	”
斉 藤 進	荒 川 区 立 南 千 住 第 二 中 学 校	”
長 谷 川 幸 次	練 馬 区 立 南 が 丘 中 学 校	”
中 野 利 彦	葛 飾 区 立 本 田 中 学 校	”
鈴 木 崇 夫	足 立 区 立 江 南 中 学 校	”
原 浩 三	足 立 区 立 第 五 中 学 校	”
小 谷 野 良 行	八 王 子 市 立 第 七 中 学 校	”
堀 内 雄 二	八 王 子 市 立 七 国 中 学 校	”
中 島 理 智	昭 島 市 立 拝 島 中 学 校	”
石 村 康 代	日 野 市 立 第 三 中 学 校	”
山 口 順 一	多 摩 市 立 聖 ケ 丘 中 学 校	”
宮 寺 清	多 摩 市 立 諏 訪 中 学 校	”

あ と が き

平成 25 年度「中英研会報」第 72 号を発行に際し、一言付け加えさせていただきます。

まず、本誌発行におきまして、文部科学省国立教育政策研究所・教育課程研究センター教科調査官の平木裕先生をはじめ、多くのご執筆者の皆様からのご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

この会報では例年、東京都の市区町からなる各地区が行っている研究と研修の実施状況の報告を「地区活動報告」として掲載させていただいております。本年度も、51 から成る全地区からのご協力をいただきまして、ご紹介できることになりました点、各地区部長の皆様に対して、感謝申し上げます。

さて、新しい学習指導要領に伴う教育課程の実施が 2 年目を迎えたばかりと言うのに、英語教育を取り巻く社会的動向では、大きなニュースが次から次へと飛び込んで来ております。『小学校外国語活動開始の引き下げ』『CAN-DOリストの作成』『英語科教員の資格向上』『英語による中学校英語授業の実施義務』『英語科教員の海外研修義務』等々。社会は、日本人の英語力の向上と発展をさらに求め、英語教育の大きな変化を求めているように見受けられます。

このような社会的な背景の中で、私たち中学校の英語科教員は、一体、どのような姿勢で、何をしていけばいいのでしょうか？

それは、言うまでもなく、目の前にいる生徒に確実な学力・コミュニケーション能力の基礎—を着実に付けさせていくことに尽きると思います。それ以下でもなく、それ以上でもありません。揺らぐことなく当たり前のことを当たり前に実行するのみです。英語と日本語のちがいを知らせ、英語の音声と文構造のしくみを理解させ、英語を聞いたり読んだりすることを厭わずに実行しながら相手の言いたいことや外国の文化を知ったり、英語を話したり書いたりすることを厭わずに実行しながら自分を表現したりいろいろな事象を理解したり共感することができるようにさせるために必要な指導と支援をするのみではありませんか。本誌を通して、このような基本に立ち戻ってもらえれば、この上なく幸せです。

最後になりましたが、本誌発行にあたり、ご支援を賜りました多くの先生方に感謝いたしますとともに、全会員の先生方の一層のご活躍をお祈りいたします。

(都中英研出版部長 池田 武男)

都中英研会報 第72号

平成26年3月10日印刷
平成26年3月14日発行

発行者 東京都中学校英語教育研究会

代表者 **重松 靖**

発行所 東京都中学校英語教育研究会
東京都国分寺市立第三中学校
東京都国分寺市高木町2-11
TEL (042) 572-7143

印刷所 (株) オフィス・サンライズ
東京都大田区鵜の木2-12-10
TEL (03) 5741-3146